

め、又衛生に關しても最も深甚なる注意を加ふる等、兎に角七十六歳の老軀をも厭ひなく献身的に子女の教養に盡瘁せらるゝのは、女子教育界の爲め大に慶すべく又感謝の意を表すべきである、世の婦女子たる者は此德厚ある老女史の薰育を受け家庭及社會の有用なる叔女となられんことを切望する次第である(著者)。

四 香蘭女學校 (私立)

位置 麻布區永坂町一番地にあり

目的 本校は女子高等普通教育に缺くべからざる學科を授け、基督教に依て啓發されたる女徳を涵養することを期し、爾來年々整理擴張して今日に至れり

但德育は基督教に據ると雖も保證人の申出又は承認あるにあらざれば決して生徒の改宗を勧むることなし

創立 明治二十一年一月三日

卒業生 明治四十二年迄の卒業生は本部九十八名手藝部四十名あり

生徒數 本校は教育の完全を期するが爲めに生徒の定員を百五十名とす、但し目下現在生徒は本部百一名手藝部四十一名あり

學部 本校を分ちて本科及高等科とす、又附屬として手藝部を設く

科 門 本科及高等科の授業を英語科及邦語科に兩分し毎週時間を區別して教授す、英語を以て教授する諸科は一切經驗ある英國女教師に委任しあれば從學者の便多かるべし、各科の學科課程左の如し

本科及高等科學科課程表

科別	本科					高等科				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	課程	數	時	數	時
修身	道德ノ要領 作法	三同	三同	三道德ノ要領	三五同	國語漢文ノ 講讀作文ノ 習字	五	同上	同上	同上
國語	講讀、文法 作文、習字	六同	六同上	六同上	六講讀、習字	國語漢文ノ 講讀作文ノ 習字	五	同上	同上	同上
英語	發音、綴字、 讀方、譯解、 書取、會話、 習字	六同	六同上	六同上	六同上	讀方、譯解、 會話、作文	六	同上	同上	同上
歷史、地理	日本歷史 日本地理	三日本歷史 外國地理	三日本及東洋 歷史、外國 地理	三西洋東洋 歷史、地理	三西洋歷史	西洋歷史	二	同上	同上	同上
數學	算術	二同	二同上	二算術、代數	二代數、幾何	實用數學	二	同上	同上	同上
理科	植物	二動物	二化學及礦物	二物理	二生理及衛生	幾何	一	同上	同上	同上
圖畫					幾何	一	同上	同上	同上	同上
教育					兒童心理 兒童家庭 教育	一	同上	同上	同上	同上
家事				緒論 衣食住	前ノ續キ 養老及育兒 看病ノ傳染 病ノ豫病 整理經濟	家政ノ大要	二	同上	同上	同上

備考	裁縫	運針、裁方	三同	上三	裁方、縫方	三	縫方、操方	三同	上三	同編物、藝物	上四
	唱歌	單音唱歌	一五同	上二	複音唱歌	一五同	上二	同樂器用法	上二	同上	同上
合計	體操	普通體操	一五同	上二	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	遊戯	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
合計		二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	三〇

一、毛筆畫及生花ハ每週一回有志ノ者ニ授ク
 二、刺烹科ハ科外トシテ毎土曜日本科及高等科ニ課ス
 三、高等科ニハ選科ヲ許ス但修身ハ必須科トス

學年學期 學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る、之を左の三學期に分つ

第一學期 自四月一日至七月三十一日 第二學期 自八月一日至十二月三十一日 第三學期 自翌年一月一日至三月三十一日

入學期 入學は毎學年の始めとすと雖も志願書は三月中旬迄に差出すべし、尙ほ缺員あるときは臨時入學を許す

入學資格 本科 尋常小學校卒業若しくは之と同等以上の學力ある者とす

高等科 本科卒業者并に之と同等以上の學科を修了したる者とす

學費 入學料金貳圓 授業料一箇月本科金貳圓 高等科金貳圓五拾錢

隨意科目中の音樂科は金壹圓以上 毛筆畫及生花は各金四拾錢以上五十錢迄

但一家族にて入學者二人以上なれば下級者の授業料金貳拾錢を減すべし

修業年限 本科五箇年 高等科一箇年

寄宿舎 本校に寄宿舎を設け希望者を入舎せしむ、寄宿生徒の總攝は一切經驗ある英國

女教師にして、校内に居住し常に生徒と起居を共にする者に委任しあれば、從學者の便益少なからざるべし、且生徒には本邦固有の風裁禮節等を守らしめ益其完美を煥發すべし、寄宿料は一箇月食料舎費及炭油湯沐費共夏期金七圓五十錢冬期金八圓とす

○手藝部

目的 當部は女子に適切なる技藝を授けて自營の道を得せしめ、併せて其品性を陶冶し以て道義を啓發するにあり

教科 教科を分ちて裁縫、刺繡の二科とす

學術科 各術科の外心須の普通學科を教授す、其程度は高等女學校程度に準す

裁縫科の細目左の如し

- 第一學年 運針 穴かゝり まつり縫 千鳥がけ 返し縫 西洋形前掛(大人及小兒物) シヤツ及ツボン下(實物雛形) 日本形涎掛 單襦袢 單物(男女取交せ) 裙形(五分内外 木綿) 袖形(綿入及袷片袖但二分の一) 鯨帶 袷(男女取交せ、小兒物) 合羽(女物) 綿入(男女小兒取交せ) 羽織(木綿綿入女小兒物)
- 第二學年 西洋形前掛 シヤツ及ツボン下(實物) 帷巾 袷(男女取交せ、絹木綿) 羽織(男女綿入) 羽織(男單衣) 羽織(男袷) 綿入(男女取交せ、絹木綿) 袴(男、女襠なし) 男帶(小倉) 鯨帶(女物) 長襦袢 被布 道行
- 第三學年 西洋形涎掛 袷(小袖男女) 綿入(小袖男女) 女綿入羽織 男袷羽織 男單

衣羽織 鯨帶 丸帶 單衣重 重物 比翼(付本) 單衣袴 袷袴 女襦有袴 夜着
 (雞形) 蚊帳(雞形) 袴引(雞形) ミシン使用法 女兒洋服 男兒洋服
 繡刺科の細目左の如し

第一學年 木綿絲平縫(四季の花) 木綿絲すから縫(ハンカチーフ其他種々) 木綿絲兩面縫
 (ハンカチーフ其他種々) かま絲平縫(四季の花) より絲平縫(四季の花)
 第二學年 金絲とち(花鳥) さがら縫(半襟其他) けし縫(半襟其他) すが縫
 第三學年 肉入金絲とち(紋其他種々) より絲さし縫(花鳥) かま絲さし縫(花鳥) 其他
 山水人物等

術科は専ら實物に就き教授す

入學資格 入學者は年齢十五歳以上にして高等小學第二學年修了者又は同等以上の學力を有する者とす、但年齢學力此規定に達せざる者と雖も假に入學を許し豫備の術科及學科を教授することあるべし

學費 入學金壹圓 授業料一箇月裁縫科金壹圓 刺繡科金壹圓貳拾錢

修業年限 各科三箇年

學年學期 入期學 寄宿舎等は本部と同じ

職員 總理(代理)はエ、エフ、キング氏、牧師今井壽道氏、校長長橋政太郎氏、ミッシン代表者ミス、リカーツ氏、教頭ミス、ニユーマン氏にして、外人六名邦人貳拾錢名の教師あり。

五 普連土女學校 (私立)

位置 芝區三田功運町三十番地にあり

目的 本校は女子に完全なる學藝を教授し家庭に於ける善良なる婦人を養成するを目的とし、且つ同時に適當なる外國教師を招聘して英語學及び道德學を教授し特に力在此方面に傾注せり

立 明治二十年

備 校舎は應接所、教員室、講堂、體操室、書籍室、禮法室、裁縫室及茶室の外九個の教室を有し、又別に家政學の教授に必要な建物ありて、洋式及和式の料理室と食堂と之に附屬する諸般の器具とを設備せり

門 本校の教科を分ちて本科、高等科とす、更に高等科を邦語部、英語部、家政部、聖書部に分つ

學科 各科の學科程左の如し

本科 修身 國語 漢文 英語 歴史 地理 數學 理科 圖畫 家事 裁縫
 音樂體操にして毎週授業二十八時間とす、其課程は府立高等女學校と大差なし、唯特に英語學 家政學倫理學に重きを於けり、但本科三學年以上には別に隨意科として插花 茶道 料理 音曲等を課す

高等科 之は四部の内一部を撰みて學習せしめ其時間は一週二十八時間に満たざる時

は他の一部の中より所望の學科を課して之を補充するものとする
 邦語部 當部は日本歴史 國語學 日本文學其他の諸學科を教授し高等なる邦語學
 の知識を與ふるものとする

高等科第一邦語部學科課程表

學科	第一學年		第二學年	
	時間	上	時間	上
修身	三	同	三	同
國語	五	同	五	同
漢文	二	同	二	同
歷史	二	同	二	同
地理	二	同	二	同
數學	二	同	二	同
理科	二	同	二	同
圖畫	一	同	一	同
音樂	五	同	五	同
體育	三	同	三	同
合計	一九		一九	

備考	本表中×符ハ便宜ニヨリ他ノ學科ニ換エル事アル可シ
合計	三三二

英語部 當部は學生に完全なる英語の知識を與へ英文學を解し英語教員たらんと欲するもの、學力を養成す

高等科第二英語部學科課程表

學科	第一學年		第二學年	
	時間	上	時間	上
修身	三	同	三	同
國語	九	同	九	同
英語	二	同	二	同
音樂	一	同	一	同
體育	三	同	三	同
合計	一八		一八	

家政部 當部は家政科の教師たらんと欲する者、又は家庭を作らんとして家事取扱の爲め特別の練習を爲さんと欲する者の爲めに、學理上實際上の兩方面より家庭

を作り家事を取扱ふ方法を教授するにありて、主要の學科は家政簿記 洗濯法
看護法 家政化學 家政物理 細菌學 衛生學 裁縫 料理等とす

高等科第三家政部學科課程表

學科	第一學年		第二學年	
	時間	時間	時間	時間
修身	基督教證據論、教會歷史實習 日本及西洋禮法	二同		上二
簿記	普通簿記	一同		上一
育兒	理論實習	一同		上一
洗濯	理論實習	一同		上一
家政	家政化學、衛生法、家政物理 細菌學、清潔法	三、五同		上三
料理	日本料理、西洋料理	六同		上六
裁縫	日本裁縫、西洋裁縫	五同		上五
音樂	唱歌	一同		上一
體操	普通體操、遊戲	二、五同		上二
合計		二二二		二二二

聖書部 當部は基督教に關する完全なる知識を與へ道德倫理の教理其他基督教に於

ける各種の教理を教示するものとす

高等科第四聖書部學科課程表

第一學年	第二學年	
	時間	時間
モ 一 七 五 書	三、五 約書亞書ヨリ列之記略迄	三、五
馬 太、馬 可、福 音書	三、五 使徒行傳及書翰	三、五
基 督教 々々 理	二 豫言者	一
聖 書地 理	一 新約	一、五
舊 約 史	二 友會歷史、友會教旨	一
教 會 歷 史	二 基督教證據論、倫理學	一
聖 書 誦 讀	三、五 約翰福音書	一、五
教 授 法	二 教授	一
每週授業時間合計	一四	一四
每週授業時間合計	一四	一四
每週授業時間合計	一四	一四

學年學期 入學期は香蘭女學と同じ
入學資格 本科 尋常小學校卒業者又は之と同等以上の學力ある者とす

高等科 本科卒業者又は之と同等以上の學力ある者とす

學 費 入學料金貳圓 授業料一箇月本科一、二、三年各金壹圓五拾錢 本科四五年各金貳圓參拾錢 高等科金貳圓五拾錢 隨意科中の插花金五拾錢 琴金五金錢乃至金七拾五錢 裁縫金五拾錢 料理(日本料理金七拾五錢、西洋料理無料) 茶の湯金五拾錢 オルガン金壹圓

右の隨意科を修むる者は金一回毎に、日本料理金拾五錢、西洋料理金貳拾錢、茶の湯金拾錢を納むべし、又冬期は別に炭代金貳拾五錢を納付すべし

修業年限 本科五箇年 高等科各部二箇年

寄宿舎 本校の寄宿舎は五十名の生徒を容る部に適し、採光換氣等設備行届き舎監の外教員數名起臥を共にし舎内の監督は外國婦人之に當り、其寄宿料は時價の高に低より一定せざるも一箇月凡そ金六圓内外とす

職員 監督はギルバート、ポールス氏、校長は海部忠藏氏、教頭兼寄宿舎監督はアリスジ、ルエス氏にして、外人六名邦人十四名の教師あり。

六 日本力行會 (私立)

位置 小石川區駕籠町五十一番地にあり

目的 本會は日本國民の靈と肉とを救濟するにあり

沿革 本會創立の最初は其理想の一を達する爲めに逆境にある青年男女に獨立自活と

奮闘的力行の精神を鼓吹して自活勉學或は自活自修の道を得せしめ堅忍不拔其目的を達せしめたり、其創立は明治三十年一月一日にして、爾來六千餘名に或は單純なる或は複雑なる世話誘掖を與へて其目的を成さしめ或は今や其途上にある者あり、爾來時勢の要求により本會は各種の設備を設けて目的を遂行すべく各方面に向て其發展をなすべき方針を定めたり

部門 本會は其の目的を達する爲め、日本實業學校、力行女學校、渡米部(渡米會員修養部)、苦學部(修養學校)及煩悶解決部を設く、依て左に女子の必要なる概略を示すべし

○ 力行女學校

目的 本校の目的は之を左の四別とす

- 一、精神修養を重んじ健全にして堅固なる品性並に意志的活動の妻女たり母たる婦人を造るにあり
- 二、日本今日の家庭を治むるに少しも差支なき實力ある婦人を造るにあり
- 三、獨立自活的の婦人を造るにあり
- 四、在米同胞の内助者として送るに適し、又は渡米成功するに適する婦人を造るにあり

生徒種別 生徒を學力により甲乙の二部に分つ

學 科 教科目は、修身 國語 外國語(英語) 地理 歴史 數學 理科 音樂 和洋料
 理法 ミシン裁縫 簿記 經濟 法律 和洋洗濯法 和洋家内掃除法 常識訓練
 甲部生徒の學科課程左の如し

甲部學科課程表

學 科	第一學期		第二學期		第三學期	
	時數	時數	時數	時數	時數	時數
修 身	六同	上	六同	上	六同	上
國 語	三同	上	三同	上	三同	上
英 語	五同	上	五同	上	五同	上
歷 史	一外	上	一外	上	一外	上
地 理	一外	上	一外	上	一外	上
數 學	一分	上	一分	上	一分	上
理 科	一	上	一	上	一	上
圖 畫	一	上	一	上	一	上
裁 縫	三	上	三	上	三	上
音 樂	二	上	二	上	二	上
合 計	三九	三九	三九	三九	三九	三九

體 操	常 識 訓 練	ミ シ ン 裁 縫	簿 記	料 理	茶 道	合 計
普通體操	日常行事	普通ミシン	家政簿記	和洋料理	點茶	三九
三同	一同	四同	二同	四同	一同	三九
上	上	上	上	上	上	三九
三同	一同	四同	二同	四同	一同	三九
上	上	上	上	上	上	三九

乙部生徒の學科は前項の各科目中最も必要なる科目を撰擇して教授す

學年學期 學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る之を左の三學期に分つ

第一學期 自四月一日至八月三十一日 第二學期 自九月一日至十二月三十一日 第三學期 自翌年一月一日至三月三十一日

入學期 従來入學は毎學年の始めとせしも、本年度より輪廻教授に改めしにより何時にても入學を許す

入學資格 甲部は高等女學校(修業年限四箇年)卒業生若くは十六歳以上にして之と同等以上の學力を有する者とす

乙部生は尋常小學校卒業生若くは之と同等以上の學力ある者とす

學 費 入學試験料金五拾錢(入學受験者のみ) 入學料金貳圓 授業料一箇月金貳圓五拾錢
 校費金貳拾錢 西洋料理科實費金五圓(但之は此の科卒業迄の實費)

修業年限 甲部一箇年(猶ほ温習者二箇年) 乙部五箇年

○ 渡米會員修養部

主

旨 本會の渡米會員となりて渡米せんと志願する者は、先づ第一に自己が果して渡米し得る資格あるや否やの試験を受ける爲め、試験料金七拾錢返信料金參錢救世雜誌代金參錢を送附して試験問題紙を請求すべし、然して送附を受けたる者は答案を差出すべし

試験の結果渡米の資格ある者は本會の渡米會員たることを得べし
試験の結果十分の資格なきも着々準備して資格を得る見込ある者は力行女學校生徒となりて學科及其他の修養を受くべし

修養部に入て渡米準備すべき所の者にして本會の修養渡米會員たらんとする者は、東脩金壹圓月謝二箇月分金四圓を添へて申込むべし、當部に入學を許可せられたる者は直ちに入部し規則に従ひ修養すべし

會

費 修養渡米會員は修養部在學中は月々左に免除の特典を與ふ但修養後の會費は普通渡米會員と同じ

一 西洋料理部月謝金參圓 二 英學部東脩金壹圓月謝金壹圓 三 會費金參拾錢

學

科 當部の課程は左の如し、但女子は或學科に限り男子と別に教授することあるべし

祈の友會 聖書輪講 基督教研究會 立志講話 西洋料理 米國研究會 渡米俱樂部
常識教練會 感話會 雄辯會 體育部 圖書館修學 野戰傳道 訪問部 神學研究
西洋音樂 英語 各種勞働(米國式)

修業年限 修養年限は別に定めず、校長之が修養を了すと認めたる者を修業せしむ

○ 苦學部及修養學校

主

旨 苦學部は力行會既設事業の一にして、東京にありて自活勉學し又は將來實業を以て身を立てんとする人に諸種の便宜を與ふると共に、尙海外發展の基礎を作らんとする人、或は東都に親戚知己朋友なき學生の指導者となる爲に設けたるものなり

一、會員は至仁至愛の天父に依頼して各其天職を成さんが爲めに奮闘力行するを以て人生の目的と確信すべし

二、苦學會員は品行方正にして遠大の志望を有し堅忍不拔奮闘力行して素志を成さんと勵む堅き決心ある者に限るべし

入學手續

意志堅固身體強健にして此規則に従ひ得る人は男女に不拘何人も許可すべし
入會せんと欲するものは自己が苦學すべき資格あるや否や調査の爲め、試験料金七拾錢返信料金參錢救世雜誌代金參錢を添へて試験の調査を請求すべし

調査の結果資格ある者に限り本會員たるを許可すべし、故に本會は入會試験を経ずして何人も一切入會を許可せず

入會の許可を受けたるものは來會の節修養學校束脩金壹圓月謝金壹圓を添へ差出すべし、但事情によりては其幾分を減額免除する事あるべし、會員ならば三箇月後に於て毎月會費金貳拾錢宛を納付すべし

入會の許可を得たる者は一箇月以内に必ず上京すべし

會員は各自必ず其地の有志者を説き本會事業に賛成せしめ、一年一圓以上を寄附し得る賛助員二人以上を募り現金を持參すべし

會員の宿所は本會の係員之を世話すべし

修養事項及修養學校 入會の手續終りたる者は其の日より之を修養學校に入れ修養せしむ、之を苦學部修養學生と名づく

當修養學生の修養期間は三箇月を一期となす、但本人の性行により二期に亘らしむることあり

修養年中の費用一切は一箇月間凡そホーム又自炊にて金五圓より六圓内外、下宿にて八九圓内外とす、但本會にはホームの外、目下女子寄宿舎ありて會長及夫人直接監督す修養中は毎日一定の時間修養學校及之に關する本會の諸集會に出席す きのものとす 修養學科目は前項の渡米會員修養部と大差なし

紹介就職 本會の規則を嚴守して修養學校(三箇月)卒業したる會員中、品行方正にして本會の信任し得べき者を順序により、適當なる職業に紹介の勞をとるべし、但其人物の如何によりては三ヶ月に充たざるも紹介の勞をとることあるべし

附 職

員 會長は島貫兵太夫氏にして、同夫人鹿子女史初め拾數名の教師あり。

記

會長島貫氏は熱心なる基督教信者で、發育した事は必度實行し且成し完げると云ふ、宗教家としては珍らしい藁薙肌の眞面目で意志の最も強固なる事業家である、今氏が著者に語られた大要を左に述べよう。私は苦學生の救濟事業として明治三十年此會を創立し、以來幾多の難事を経て漸く今日具體的多少の結果を得ました、目下在米會員は二千餘人あります、又桑港に支部を又各地教會に出張所若くは通信所を四十餘ヶ所設け會員の便宜を計りつゝあります、近時年を逐ひ生存競争の激烈なる追々地方に及び自然衰敗を來し、青年學生も充分なる教育を受くるを得ず、一種痛烈な煩悶に囚はれて世を呪ひ人を怨むに至る者多しのは實に社會の爲め慨歎に堪へない次第で、此の様な境遇の人より問合が毎月三百通以上に達します、之等諸子の爲め、男子には多少の餘裕ある者には三ヶ月分の生活費を持たせて上京させ、約四十箇條の試験をして入會を許し、日米商業學校に入れて修養訓練をなさしめ、又女子は力行女學校に入學せしめます、此女學校は規則に示せる通り、海外同胞を救濟する爲め、之が花嫁を養成するのが目的で、現に在米同胞は二十萬人あるが其中女は僅か四五千人程しか居ない、どうも血氣の若者揃ひなれば兎角墮落は免れない、汗水流して働いた金は、酒色に耽り忽ちの中に元の木阿彌となり、多年粒々辛苦の貯蓄も水泡と消へ失せ、大和民族の發展處でない事になる、又女子にても近來なか／＼結婚が六ヶ敷なつて少位の教育あるのでは、理想的家庭は及びもつかぬ、それよりは矢張り成功しつゝある海外同胞に就いて共に一苦勞した方が面白い、そこで本會は責任を以て仲介の勞をとり富眞の交換で見合し、目出度これも決まれば、花嫁は波路を越へてお輿入するのである、そこで高等女學校卒業程度の女にはミシンや英語や西洋料理等を教へて居ます、又近來下女下男部を設けたが採用主も多く好成绩である、又更に顧問解決部を設けて日曜の午後私が直接面談して各自の方向を誤らしめぬやう努めて居ます、と熱心に其事業の詳細を語られた、余は氏の如く献身的社會救濟事業に盡瘁せられつゝあるは衷心より深く感謝する次第である、尙ほ益々規模を擴張して國家的事業の盛大ならむ事を祈る、兎に角此處は純潔無垢なる青年男女の集屯所で、奮闘的空氣の満ちて居るのには、他に得られない愉快を感じたのである(著者)。

七 女子聖學院

位置 府下北豊島郡瀧野川村字中里にあり
目的 本院は女子に須要なる高等の教育を施し以て濟家處世の才能を啓發し完全なる婦徳を涵養するにあり

創立 明治四十一年三月

生徒數 現在生徒數は五十名あり

部門 本院の教科を分ちて普通學部、高等學部、別科神學部及特設科とす

普通學部 修身 國語漢文 英語 地理歴史 數學 理科 圖書 習字 家事 女禮
 音樂 裁縫 體操にして、其授業は毎週三十二乃至三十四時間とす、其課程は高等女學校程度とす

高等學部 本部を分ちて文學科、神學科とす、但本部は當分設けず
文學科 本科は高等なる英文學及邦文學を究めんとする者の爲めに設く
神學科 本科は基督教々義を究めんとする者の爲めに設く

別科神學部 本部は普通學科及基督教々義を兼修せんとする者の爲めに設く

別科神學部課程表

學科	第一學年			第二學年			第三學年			
	時間	科目	時間	時間	科目	時間	時間	科目	時間	
神學	道徳ノ要旨	一	同	上	一	同	上	一	同	
	舊約總論	三	舊約歴史	二	預言史	二	新約總論	二	新約時代	二
	新約總論	三	教會歴史	三	同	上	新約總論	二	新約時代	二
	基督傳	二	上	二	新約時代	二	新約釋義	二	同	二
國語漢文	講讀作文文法	六	同	上	六	同	上	六	同	
	內外地理歴史	三	同	上	三	同	上	三	同	
	心理	二	心理學	二	同	上	二	同	上	
	地理歴史	三	同	上	三	同	上	三	同	
教育	習字	二	同	上	二	同	上	二	同	
	習字	二	同	上	二	同	上	二	同	
	習字	二	同	上	二	同	上	二	同	
	習字	二	同	上	二	同	上	二	同	
音樂	音樂	四	同	上	四	同	上	四	同	
	音樂	四	同	上	四	同	上	四	同	
	音樂	四	同	上	四	同	上	四	同	
	音樂	四	同	上	四	同	上	四	同	
裁縫	裁縫	四	同	上	四	同	上	四	同	
	裁縫	四	同	上	四	同	上	四	同	
	裁縫	四	同	上	四	同	上	四	同	
	裁縫	四	同	上	四	同	上	四	同	
隨意科	英語	三	同	上	三	同	上	三	同	
	英語	三	同	上	三	同	上	三	同	
	英語	三	同	上	三	同	上	三	同	
	英語	三	同	上	三	同	上	三	同	
每週時間計	三〇		三二		三二		三二			

特設科 本院生徒若くは特に志望する者の爲めに設け左の六科を置く、但洋器樂の外は志望者數相當の人員に満たざるときは之を設けず

和洋器樂(ピアノ、オルガン、箏) 和洋繪畫 和洋裁縫 編物及造花 茶の湯及插花 和洋料理法

學年學期 入學期は香蘭女學校と同じ

入學資格 普通學部 年齢十二年以上にして、尋常小學卒業生又は之と同等以上の學力ある者とする

高等學部 本院普通學部卒業生又は之と同等以上の學力を有する者とする

別科神學部 當部に入學を許すべき者は基督教徒にして宣教師若くは牧師の推舉に依る者にして、本院普通學部二學年修業者又は之と同等以上の學力を有する者とする

學費 入學料金壹圓 授業料普通學部一箇月金貳圓 高等學部文學科金貳圓五拾錢

高等學部神學科及別科神學部は授業料を徴收せず 特設科は一學期毎に和洋器樂(ピアノ金六圓、オルガン金參圓、箏金壹圓五拾錢)其他は各金參圓とす

學資給與 本院高等學部神學科及別科神學部生徒は職員會を経由して基督教會傳道會社團に向て學資の給與を請願することを得

修業年限 普通學部五箇年 高等學部二箇年 別科神學部三箇年

寄宿舎 本院内に寄宿舎を設け、父兄又は保證人の宿所より通學する者の外は凡て入舎せしむ、其寄宿費は物價の高低により一定せざるも一箇月金七圓内外とす

職員 院長はミス、クロイツン氏、幹事は吉村四郎氏にして、外人四名邦人八名の教師あり。

附記 本院は花の名所飛鳥山うまきの高燥開豁の地で、校舎も新築して間もなく頗る宏大で設備も完全して居る、唯愁を言へば餘りに人家を離れた處であるから朝夕生徒の通學や諸買物等に不便であるう、併し目下の生徒は寄宿生のみとのことだ、教科中普通學部は英語に最も力を用ひ殊に實地活用の方面に重きをなし、邦人より授けらるゝ譯讀は毎週二三時間なるに、外人より授けらるゝ書方、綴方、會話等は毎週四時又は三時間であるから語學の熟達は頗る早い、又神學部は神學に重きを置くことは勿論なれども同時に又音樂に充分の力を傾注するとの事だ、又總じて各學級生徒の員數の少いのは一見甚だ教授が振はない觀を呈するも、其實は反つて有利で、教師と生徒との間は極めて親密で教授も懇切で殆んど理想的に近いから生徒の裨益する點は頗る多かるう(著者)。

八 駿臺英和女學校 (私立)

位置 神田區駿河臺袋町十番地にあり

目的 本校は教育勅語の 聖旨を奉戴し、完全なる基督教主義に依て英語學及和漢普通通の學科を授け婦徳の養成をなすにあり

部門 教科を分ちて豫科及本科とす

科目 豫科の學科は修身 國語 英語 歴史 地理 數學 理科 裁縫 習字 作文 英語唱歌 圖畫にして、毎週授業二十八時間の内英語は十三時間教授す

本科の學科は豫科の學科へ家政 漢文を加へ、毎週授業二十九時間とし内英語を十三時間教授す

正科外に三十分間聖書を講義す但志望者に限る、又音楽を隨意科として有志者に限り特に教授す

授業時間 授業時間は午前九時より午後四時迄とし、毎朝八時祈禱をなして後始業す

入學期は香蘭女學校と同じ

豫科 年齢十二歳以上にして尋常小學校四學年修業者若くは之と同等以上の學力ある者

本科 本校豫科修了者又は高等小學卒業者若くは之と同等以上の學力ある者とする

學費 入學金壹圓 授業料一箇月豫科金六拾錢(但英語兼修者は金壹圓) 本科金壹圓

修業年限 豫科四箇年 本科四箇年

寄宿舎 寄宿生は一箇月以上通學の上適當と認むる者に限り入舎を許す

職員 校長は瀬沼格三郎氏にして拾數名の教師あり。

九 女子神學校 (私立)

位置 神田區駿河臺北甲賀町十三番地にあり

目的 本校は正教の定理道德に基きて普通教育を施すにあり

部門 教科を分ちて豫備科、本科、選科とす

學科 豫備科の學科は教理 國語 地理 歴史 算術 理科 習字 裁縫 唱歌 體操にして、毎週授業二十八乃至三十時間とす

本科の學科は教理 國語 漢文 地理 歴史 英語 數學 理科 家政 裁縫 手藝

(編物刺繡) 習字 圖書 音樂 體操 割烹にして、毎週三十二乃至三十四時間とす

但英語及音樂科の彈琴は隨意科とす

學年學期 學年は九月一日に始まり翌年八月三十一日に終る 之を左の二學期に分つ

第一學期 自九月十一日 至十二月三十一日 第二學期 自一月三十一日 至八月三十一日

入學期 入學は毎學年前に募集し試験の上入學を許す

入學資格 入學者は年齢十二歳以上十八歳以下の尋常小學校卒業以上の學力ある者にして、入學試験に合格せる者とす

學費 入學金壹圓 授業料一箇月豫科金六拾錢 本科金壹圓

寄宿舎 本校に寄宿舎は地方よりの遊學者又は家庭の都合上通學を不便とする者の爲めに設く、其寄宿料は一箇月金五圓とす。

一〇 救世軍士官學校 (私立)

位置 牛込區市ヶ谷本村町にあり

目的 本校は救世軍の士官として其傳道及び慈善事業の爲めに働く男女を養成するにあり

學科 學科課程は聖書 教理 救世軍々律等とす

講演 毎週ホツダ少將、山室中佐等の講演あり

入學資格 救世軍本營に於て其士官候補生として適當と認めたる者に限り入學を許す

修業年限 修業は凡そ拾箇月とす

學費 本校は授業料を徴收せず、尙在學中は幾分の學資を給與す

職員 校長は英人オール少佐にして内外人數名の教師あり

注意 本校の少將中佐等は救世軍士官としての名稱にして、我が日本陸海軍の軍事とは全く關係なし依て特に附記す(著者)。

第八章 商業及簿記

一 日本女子商業學校 (私立)

位置 麴町區土手三番町二十一番地にあり

目的 本校は女子に穩健なる經濟思想及び圓滿なる常識を啓發を達せしむる爲めに適切なる商業教育を施し、家庭の整理者慰藉者として其本分を完ふせしむるにあり

沿革 本校は明治三十六年十月神田區錦町二丁目私立東京商業學校内に創立し、女子商業學校と稱し高等小學校卒業以上の學力ある者に二ヶ年を以て簡易の商業教育を施せり、三十七年四月學則を改め其後屢々學科増設の爲め規則を改正し、四十年五月現今の新築校舍に移轉し日本商業學校と改稱す、三十七年七月第一回の卒業生を出して以來四十二年三月第六回迄二百五十餘名に達せり

生徒數 現在生徒は三百餘名あり

部門 本校に本科、高等科及速成科を置く、又別に本年五月より料理講習會を設け、和洋清三科を毎週一若しくは二回宛教授す

學科 各科の學科課程及毎週授業時間左の如し

本科學科課程表

學科	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年	
	數	時	數	時	數	時	數	時
倫理	實踐倫理	一	同上	一	同上	一	同上	同上
國語	漢文	四	同上	三	同上	三	同上	同上
作文	普通文	二	同上	同上	同上	同上	同上	同上
數學	和洋普通算術	三	同上	同上	同上	同上	同上	同上
習字	楷書	三	楷行書	二	行草書	二	同上	代數
簿記	家計簿記	二	複式商業簿記	二	銀行簿記	二	同上	同上
商事要項	通論	二	海運、陸運、銀行	三	保險、倉庫、引所、外國貿易	二	同上	同上
家事	禮法及衣食住	一	同上	同上	同上	同上	同上	同上
地理	內國地理	二	同上	同上	同上	同上	同上	同上
歷史	本邦史	三	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	東洋史	一	同上	同上	同上	同上	同上	同上
	西洋史	一	同上	同上	同上	同上	同上	同上

科目	第一學年		第二學年	
	時數	上	時數	上
理科	二	同上	二	同上
英語	五	同上	五	同上
圖畫	一	同上	一	同上
裁縫	五	同上	四	同上
唱歌	一	同上	一	同上
體操	一	同上	一	同上
合計	三二	三二	三二	三二

實用的染色並二配色法
割烹(和洋支那料理) 第三學年ヨリ課ス

高等科學科課程表

學科	第一學年		第二學年	
	時數	上	時數	上
倫理	一	同上	一	同上
國語	四	同上	四	同上
漢文	一	同上	一	同上
英文	一	同上	一	同上
商業	一	同上	一	同上
簿記	一	同上	一	同上
習字	一	同上	一	同上
數學	一	同上	一	同上

必修科目

科目	時數	上	時數	上
數學	二	同上	二	同上
簿記	四	同上	四	同上
商業	三	同上	三	同上
商業地理、歷史	二	同上	二	同上
經濟	二	同上	二	同上
法律	二	同上	二	同上
英語	五	同上	五	同上
家事	一	同上	一	同上
裁縫	三	同上	三	同上
合計	三二	三二	三二	三二

隨意科目

速記	二	同上	二	同上
タイプライター術	二	同上	二	同上

備考 科外ニ實用的染色並ニ配色法及割烹(和洋支那料理)教授ス

速成科學科課程表

學科	第一學年		時數	學科	第一學年		時數
	倫理	實踐倫理			商業	要項	
國語	講讀	和漢文	四	商業地理及商品	大	注意	二
作文	普通文、商用文		三	家事	衣食住		二
習字	楷行草書		四	英語	講讀、會話		五
數學	和洋商業算術		四	合計			二二
簿記	商業並ニ銀行簿記		六				
備考	科外教授實用的染色並ニ配色法、割烹(和洋支那料理) 表中ノ英語ハ隨意科目トス						

學年學期 學年は四月八日に始まり翌年四月七日に終る、之を左の三學期に分つ

第一學期 自四月八日 至七月三十一日 第二學期 自九月十一日 至十二月二十日 第三學期 自一月八日 至三月三十一日

入學期 入學は毎學年の始めとす、但缺員ある時は臨時入學を許すことあり

入學資格 本科一年 尋常小學校(六ヶ年)卒業者又は之と同等以上の學力ある者とする

本科二年 高等小學校卒業者又は之と同等以上の學力ある者とする

高等科一年 本科卒業生若しくは高等女學校卒業以上の學力ある者とする

速成科 或事情により數年在學し能はざる者の爲めに特に此科を設け、入學者は高等

小學校卒業以上の學力あるを要す

學費 入學金貳圓 授業料一箇月本科金貳圓 高等科金貳圓五拾錢 速成科金貳圓

修業年限 本科四箇年 高等科二箇年 速成科一箇年

寄宿舎 本舎は生徒修學の便を謀ると共に平和娛樂の處たらしめんとす、本舎の取締は

舎監これに任じ、各室には室長一名を置き室内を取締らしむ、費用は一箇月舎費金壹

圓舎費金七圓とす

職員 校長は法學博士和田垣謙三氏、學監嘉悦孝子女史、理事小田綱太郎氏、同小牧喬定氏にして、學士其他専門の教師貳拾餘名あり。

附記 本校は怒るな働け主義を以て和田垣博士嘉悦女史の熱心なる經營と教授に依り且時勢に適合して、年を追ひ隆盛に向ふのは驚くばかりである、現に嘉悦女史は校内に住宅を設け病氣でない限りは毎朝五時に起床して、

寄宿生と共に校内の廣い廊下の雑巾がけ迄し、それが済むと必ず習字をせられるとの事である、斯の如く直接間接に生徒の訓育に献身的盡さるゝので、生徒も自然に教化せらるゝとのことである、著者が訪問した時は女史は他出中で、理事小田氏より學校に關する總てを聞き又各教場を參觀したが、教室もよく整頓し又其教授方もなかなか親切である、學生も或る高等女學生の如く華美なハイカラのものは少なく極々質素で温順である、從て卒業生も主婦として家庭に於ても又職業を求むる點に於ても、圓滿な常識と高遠な思想を有する何でも出來得る婦人であるとの評判である、寄宿舎は四十一年新築したばかりで、採光換氣法も注意してある現に七十名程の寄宿生が居る、余が參觀した時は病人があつたとか試験前だとかで各室とも大分亂雑して居つたが、之は最少し整頓を願はしいものだ、然し兎に角本校は此種の學校中では設備も完全に監督も嚴重であるから、希望者は勿論父兄たる者も其子女を安じて入學せしめ得るであらう(著者)。

二 東京女子商業學校 (私立)

位置 神田區仲猿樂町十五番地にあり

目的 本校は商業に關する知識技能を有し商家の家庭に適する者、又は經濟思想と實用の才學とを有し一般家庭に適する者、若くは有爲なる店員事務員及小學校補習學校の商業科教師等を養成するにあり

部門 本校を分ちて本科、速成科、専攻科、師範科とす

學科 各科の學科課程左の如し

本科 修身 簿記 商事要項 國語 算術 歷史地理商品 英語 家事 理科 圖書

新聞雜誌 法制經濟 實習 每週授業三十乃至三十二時間

速成科 修身 簿記 商事要項 地理商品 算術 國語 英語 每週授業十八時間

専攻科 修身 簿記 商事要項 國語漢文 算術 地理商品 英語 家事 法制經濟

新聞雜誌 每週授業三十二時間

師範科 修身 教育 簿記 商事要項 國語漢文 算術 新聞雜誌 實習にして每週

授業三十三時間とす

右本科共生徒の企望によりタイプライター又は速記述を教授す

授業時間 速成科は夜間教授し、其他は晝間授業す

學年學期 入學期は日本女子商業學校と同じ

入學資格 本科一年及二年は日本女子商業學校の其科と同じ

速成科 尋常小學校卒業以上の者とす

専攻科 高等女學校卒業生又は之と同等以上の學力を有する者とす

師範科 高等女學校師範學校卒業生尋常小學校本科正教員の資格ある者又は之と同等

以上の學歷學力を有する者とす

學費 入學金壹圓 授業料一箇月本科金貳圓 速成科金壹圓五拾錢 専攻科及師範科

各金參圓

修業年限 本科三箇年其他は各一箇年とす

職員 監督文學士原龍豐氏、校長文學士池田貞雄氏にして、數名の教師あり。

三 女子計算員養成所 (私立)

位置 神田區裏猿樂町四番地にあり

目的 本所は實地應用の速成を期し専ら計算事務に關する必須の學術を教授し家計の整理又は銀行會社商店等の會計事務員たるべき者を養成するにあり

創立 明治三十五年四月

學科 家計簿記 銀行簿記 商業簿記 珠算 金錢取扱方

授業時間 授業は甲乙丙丁の四回とす 甲(自午前七時) 乙(自午後四時) 丙(自午前七時) 丁(自午後五時) 至午後九時

間) 丁(自午後五時) 至午後九時

入所期 毎月隨意入所を許す

入所資格 入所者は高等小學卒業者又は之と同等以上の學力ある者にして、身元確實年齢満十七歳以上の者に限る

學費 入所金貳圓 月謝甲金四圓 乙金參圓 丙丁各金壹圓五拾錢

修業期 甲三箇月 乙五箇月 丙丁各拾箇月

卒業試験 學期の終に卒業試験を行ひ及第者に卒業證書を付與す

特典 本所は各雇入れの申込ある時は卒業生より適任者を周旋すべし

職員 所長は黒岩規氏にして、數名の教師と共に熱心に教鞭を執れり。

四 大原簿記學校 (私立)

位置 神田區美土代町二丁目一番地にあり

目的 本校は簿記學を専門とし學術と實地を併せて懇篤に教授し實用に適するを目的とす

授業時間 毎日晝夜の二回とし、授業時數は尋常生一回三時間、速成及特別生二回六時間とす

學科 學科を分ちて七科となし一科又は數科を併修することを得、又更に教授方を尋常、速成、特別の三部に分ち其學科課程左の如し

- 一 商用簿記科
- 二 銀行簿記科
- 三 官用簿記科
- 四 日用簿記科
- 五 工業簿記科

六 農業簿記科 七 英文簿記科

教授法 單式、複式、カード式各原理を加へ實地を主眼として懇篤に教授す

入學期 何時にても隨意入學を許す

學費 月謝尋常生金壹圓五拾錢 速成及特別生金貳圓五拾錢

修業期 一科修業尋常生四十日 速成及特別生二十日

職員 校長は大原信久氏にして數名の教師あり

校外生 登校し能はざる者の爲め講義録を配布す、入會金五拾錢會費一箇年金貳圓とす。

五 日本簿記專修學校 (私立)

位置 芝區櫻川町十一番地にあり

目的 本校は簿記學を専門とし簿記の學術原理を懇篤速成に教授するにあり

授業時間 授業は午前午後夜學の三回とし、尋常生一日一回三時間、特別生一日二回六時間、速成生一日三回九時間にして、特約生は本校規定の授業時間中隨意登校し教授を請ふことを得べし

部門 教科を別ちて普通科、實踐科、練習科とし、更に本科を九科に分ち

- 一 商業簿記科
- 二 官用簿記科
- 三 銀行簿記科
- 四 農業簿記科
- 五 工業簿記科
- 六 會社簿記科
- 七 鐵道簿記科
- 八 家計簿記科
- 九 質屋簿記科

實踐科 當科は銀行、會社、商店等の事務員を養成せんと欲し、銀行會社、商店及工業等の實務實踐科を設く、入學を許す者は普通科修業者又は特別の技能ある者に限る

練習科 當科は本校規定の簿記學全科及實踐科卒業生にして尙一層高尚の學術原理を研究せんと欲する者の爲め特に設く、入學を許す者は以上の修業者にして品行方正なる者に限る

教授法 單式、複式、折衷式及カード式の簿記法を教授す

入學期 何時にても隨意入學を許す

修業期 一學科修業は尋常生一箇月、特別生十五日、速成生十日、實踐科三週間練習科三箇月

學費 月謝速算科金四拾錢 尋常生金八拾錢 特別生金壹圓拾錢 速成生金壹圓參拾錢 特約生金壹圓 實踐科生金八拾錢

校外生 登校し能はざる者の爲め通信教授をなす、修業期は一科二箇月にして、謝金は一科につき金壹圓とす

職員 校長は守田整義氏にして數名の教師あり。

六 明治簿記學校 (私立)

位置 神田區錦町一丁目十二番地にあり

目的 本校は實用に適する簿記學を男女に懇切に教授するにあり

授業時間 授業は毎日午前午後夜學の三回とし、普通科一回三時間速成科二回六時間、特別速成科三回九時間とす

學科 學科を分ちて左の八科とし、生徒を普通、速成、特別速成の三科に區別す、但別に練習科を設け又出張教授をなす

- 一 商用科
- 二 銀行科
- 三 官用料
- 四 鐵道科
- 五 農業科
- 六 工業科
- 七 家計科
- 八 珠算科

練習科 本校全科卒業者にして、尙ほ原理を研究せんとする者の爲に之を設く、此の練習期は凡そ三箇月以上六箇月以内とす

教授法 單式、複式、折衷式、カード式共各原理を加へ實地應用を主とし懇切に教授す

入學期 何時にても隨意入學を許す

學費

月謝普通科金壹圓貳拾錢 速成科金貳圓 特別速成科金貳圓八拾錢 校費各科金貳拾錢

修業年限 全科卒業 普通科一箇年

速成科六箇月 特別速成科四箇月

一科修業 普通科(四十日以上)

速成科(三十日以上) 特別速成科(十五日以上)

出張教授 本校に通學すること能はざる者にして、直接の教授を受けんと欲する者の便を謀り出張教授を請ふ時は、教師を派遣して直接の教授をなす、府下及び各地方有志者十人以上團結して出張教授を請ふものは教員を派遣して教授す、但東京市内の者なれ

ば十人以下と雖ども派遣することあり、之に關する事項は本校へ照會せらるべし。

第九章 雜種

一 東京蠶業講習所 (官立)

位置 東京府下北豊島郡瀧野川村大字西ヶ原にあり

目的 本所は農商務大臣の直轄にして養蠶及製絲に關する學理及技術を男女に講習する所とす

部門 本所に製絲講習科、養蠶講習科を置く、製絲講習科を分ちて本科及別科とす、但養蠶講習科は男生のみとす

講習定員 本科二拾名、別科四拾名以内とす

學科 各科の學科課程左表の如し

製絲講習科本科課程表

講	學科		年	
	算術	化學	第一學年	第二學年
理	算	術	算	術
化	學	理	化	學
學	同	同	同	同
上				

習					義					簿記		
屑物整理	生絲整理	第一製絲	第二製絲	生絲審查	繭審查	殺蛹貯繭	製絲機械論	製絲論	殺蛹貯繭論	養蠶法	工場管理及衛生論	簿記
屑物整理	生絲整理	第一製絲	第二製絲	生絲審查	繭審查	殺蛹貯繭	製絲機械論	製絲論	殺蛹貯繭論	養蠶法	工場管理及衛生論	簿記
同	同	同	同	生絲審查			同	同	殺蛹貯繭論			
上	上	上	上	上			上	上	論		論	論

製絲講習科別科課程表

學科		學年		第一學期		第二學期		第三學期	
		第一	第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二
講義	算術	算術	算術	同	同	同	同	同	同
	工場管理法	工場管理法	工場管理法	同	同	同	同	同	同
實習	殺蛹貯繭法	殺蛹貯繭法	殺蛹貯繭法	同	同	同	同	同	同
	製絲法	製絲法	製絲法	同	同	同	同	同	同
實	繭及生絲審査	繭及生絲審査	繭及生絲審査	同	同	同	同	同	同
	第一製絲	第一製絲	第一製絲	同	同	同	同	同	同
習	第二製絲	第二製絲	第二製絲	同	同	同	同	同	同
	生絲整理	生絲整理	生絲整理	同	同	同	同	同	同
習	屑物整理	屑物整理	屑物整理	同	同	同	同	同	同
	屑物整理	屑物整理	屑物整理	同	同	同	同	同	同

入學資格 本科 年齢満十八歳以上の身體強壯なる女子にして、二箇年以上製絲に従事し

たる者又は高等小學校卒業生若くは之と同等以上の學力を有する者にして、入學試験に及第せる者とする

別科 年齢満二十歳以上の身體強壯なる女子にして、三箇年以上製絲に従事し優等の工女たりし者又は尋常小學校卒業生若くは之と同等以上の學力を有する者にして、入學試験に及第せる者とする

入學試験科目 本科 算術 理科 作文(假名交記事文又は往復文) 製絲法
別科 作文(往復文) 製絲法

入學試験期 毎年八月とす

入學試験場 本所に於て執行す、但志願者の願に依り女生は地方廳又は郡市役所に於て之を施行することあり

入學志願期 志願者は七月十日迄に本所規定の書式に依り入學願書に履歷書及身體検査證を添へ地方廳を経由して本所に差出すべし

學費 本所講習生は講習料を徴收せず、但食費及其他の學資は自辨とす

修業年限 本科二箇年 別科拾箇月

寄宿舎 講習生は所内に寄宿するものとする、但本所の都合又は本人の願に依り通學を許す

すことあり

職員 所長は本多岩次郎氏にして、技師技手其他貳拾餘名の専門教師熱心に教鞭を執り。

一 治庵會第四教場 (私立)

位置 神田區猿樂町九番地にあり

目的 本教場は専ら家庭に實用なる和洋料理を教授するにあり

沿革 本教場は明治三十五年四月より開場し和洋料理及和洋菓子を教授す、且昨年より毎月一回女子高等師範教授宮川壽美子女史の家政講義あり、又割烹科教員志望者は實地練習及割烹科に必要な理論を教授しつゝあり

部門 教科を分ちて普通科、速成科、日曜科及び撰科の四科とし、又別に夏期講習會を開設す

授業時間及學科 各科の授業時間及學科左の如し

普通科

一 毎水曜日 正午より午後三時迄西洋料理及同菓子を教授す

一 毎土曜日 正午より午後三時迄日本料理を教授す

一 毎月二回 (隔週火曜日) 正午より日本菓子を教授す

速成科

一 毎水曜日 正午より午後三時迄西洋料理及同菓子を教授す

一 毎土曜日 正午より午後三時迄日本料理を教授す

一 毎日曜日 午前八時より正午迄隔週に西洋料理同菓子、日本料理同菓子を教授す

一 毎火曜日 正午より午後三時迄隔週に日本菓子、隔週に和洋料理を教授す

日曜科

一 毎日曜日 午前八時より正午迄日本料理同菓子に西洋料理同菓子を教授す

撰科

一 毎水曜日 正午より午後三時迄西洋料理及同菓子を教授す

一 毎土曜日 正午より午後三時迄日本料理を教授す

一 隔週火曜日 正午より午後三時迄日本菓子を教授す

夏期講習會 毎年八月一日より同月十五日迄各料理を教授す

和洋料理研究會 右各科教授の外毎月一回和洋料理研究會を開き、日本料理にて會席料理、茶會席料理、本膳料理、精進料理、和洋折衷料理を、西洋料理にて朝食晝餐晚餐の料理を各自調理して、時々品評を受け斯道の發達を旨とす、此會には卒業生を始め各料の生徒出席するを得べし、此會費は金參拾錢より金八拾錢迄とす

學費 束修金壹圓 月謝 普通科金壹圓五拾錢 速成科金貳圓 日曜科金壹圓

撰科(西洋料理科金壹圓 日本料理科金壹圓 日本菓子科金參拾錢)

右の外各科共材料費一回金貳拾錢内外を要す、但家庭の都合により材料を持歸る事不都合なる者には實費を要せず月謝のみにて教授することを許す

夏期講習科金貳圓及材料費凡そ金壹圓五拾錢(但之は十五日間にての事)

修業年限 普通科は滿一箇年を以て卒業とす

但日本料理四十回以上西洋料理四十回以上日本菓子二十回以上授業を受けたるに非ざれば卒業するを得ず

速成科は滿七箇月を以て卒業とす

但日本料理四十回以上西洋料理四十回以上日本菓子二十回以上授業を受けたるに非ざれば卒業するを得ず

日曜科及撰科も每一箇年を以て卒業とす

右四科とも半箇年卒業せし者には志望によりて卒業證書を授與す

入會者 入會志望者は宿所姓名年齢を記したる入會證を差出すべし、缺員ある時は何時にても入會を許す

職員 本教場々主は龜井まさ子女史にして、講師に宮川壽美子女史、教師に加美太一氏赤堀きく子女史赤堀吉松氏等あり。

附記 龜井女史は普通家庭にて直ぐ應用せらるやうに、又廢物利用を行ひ萬事に儉約を旨とし無益の材料を用ひざるやう、専ら家事經濟の點に注意して教授せらるので、創立以來既に卒業生百三十餘名講習修了生二百七十餘名を出だし、之等卒業者は皆實地に就て家政上非常な便益を得るとの評判である(著者)。

三 東京割烹女學校 (私立)

位置 神田區三崎町三丁目一番地にあり

目的 本校は主として和洋割烹法を教授すると共に修身、禮式等を授け以て婦徳増進の資に供し將來一家の主婦として有要なる婦人を養成するにあり

部門 教科を別ちて本科、専修科、速成科、普通科(甲科日本料理、乙科西洋料理)、研究科とす

授業及學科 各科の授業及學科課程左の如し

各科課程表

學科	本科		専修科	
	第一學期	第二學期	六箇月	月
修身	人倫道德ノ大意	同上	同上	同上
割烹	和洋割烹法	一八同	同上	同上
禮法	和洋禮式	一同	同上	同上

本科専修科共授業は毎日午前八時より正午迄とす、但日曜日は二時間とす

速成科 一週三回九時間(火水土曜日)とし、和洋兩科を兼ね一回三品宛を教授す

授業は午前九時より正午迄とす

普通^甲科 一週一回三時間(日曜日)とし、甲乙兩科共一回二品宛を教授す

授業は午前九時より正午迄とす

研究科 一週三回九時間とし、速成科、普通科甲乙等を修了したる者の爲め、更に高等なる割烹法若干種及び食卓飾附の法、食事法、給仕法等の大意を教授す

入學者 入學希望者は滿十二歳以上の女子なれば何時にても入學を許す

學費 束修金壹圓

本科 金壹圓貳拾錢 金壹圓五拾錢

專修科 金壹圓五拾錢 金壹圓五拾錢

月謝 普通^甲科 各金壹圓 材料費 各金壹圓

速成科 金貳圓 圓 金參圓五拾錢

研究科 金貳圓五拾錢 金四圓貳拾錢

修業年限 本科一箇年 專修科六箇月 速成科三箇月 普通科甲乙各六箇月

研究科一箇月

寄宿舎 校内に寄宿舎を設け希望者を入學せしむ、且他の學校へ通學を爲す女子をも寄宿せしむ、費用は一箇月舍費金五拾錢食料金七圓とす

職員 校長は秋穂益實氏にして、岩上長作氏秋穂花子氏手島玄洋氏香取千代子氏等の教師及數名の助手あり。

四 赤堀割烹教場 (私立)

位置 日本橋區本銀町一丁目一番地にあり

的 本教場は専ら家庭に實用なる和洋料理を教授するにあり

教科 和洋料理の全般

入學期 希望者は何時にても隨意入學を許す

教授時間 日本料理毎週月火曜日午前 西洋料理毎週火曜日午後

學費 束修金壹圓 月謝日本料理金壹圓五拾錢 西洋料理金壹圓

材料費一回凡そ金參拾錢

職員 日本料理は赤堀菊子女史及息女みち子氏、西洋料理は木村とね子氏専ら教授の任に當り、又赤堀吉松氏も公務の餘暇時々指教せり。

附記 先づ赤堀料理師範の家系を記そう

赤堀家料理開祖赤堀峰翁、息女きく、孫吉松、同峰吉、同みち

此の峯翁氏は遠州の出身で天保四年十八歳にて江戸に出て、料理屋の出前持から非常に辛苦艱難をして遂に割烹の淵奥を究めた、随つて上流武家の恩顧を受け名聲日を追ひ盛になつて獨力料理店を開き傍ら希望者をして烹割の普及を圖かつた、又維新後は私塾を開き益々斯道の奨励を計つた、明治二十五年安西卯太郎氏が治癒會を創立するや其顧問となり講師となつて大に之を輔佐し、又文部省に於ても女子教育上缺くべからざる科目なるを認め其命によつて、御茶水女子師範學校(現今の女子高等師範)に息女菊子と共に實地料理法の教授をした、之れが女學校の教科目に加へられた嚆矢である、後料理店を廢し専ら希望者の養成に努めた、安西こま子龜井まき子兩女

史等は皆峯翁氏及菊子女史の教を受けたのだらうな、峯翁氏は明治三十七年九十才の高齡で他界の客となられた、以後菊子女史が其子女を撫育し傍ら一般志望者の養成に努めつゝ今日に至つたのである
 今赤堀一家の現状を記せば、菊子女史は本年六十歳の高齡なるに鏗鏘として壯者を凌ぎ、自宅の外は女子大學、女子美術、青山女子手藝、日本貴婦人會等に教鞭を執られ、令息吉松氏は(今年四十三歳)三十二年より宮内省大膳寮庖丁の重職に任じ今猶ほ専心此の榮職を勤められ、息女みち子氏は母女史に従ひ各學校を受持ち又自宅生徒の教養に努め、菊子女史の甥峯吉氏は目下米國華盛頓大使館の料理係を務めて居られる、目下の教場は場主峯吉氏が渡米中の爲め餘り振はないやうであるが、歸朝後は改築して大に發展せられることだ、兎に角峯翁氏は今代に於て料理師範獎勵者としての重鎮である、又斯の如く一家一門悉く斯道普及に盡瘁せらるゝは眞に喜ばしい次第である(著者)。

五 大日本割烹割烹教場女子部 (私立)

位置 京橋區鈴木町十一番地にあり

目的 教本場は専ら和洋割烹法を教授すると俱に之れに必要な修身禮式等をも教授す

教科 家庭料理の一般

授業日 授業は一週一回とす

職員 會長は宮中臣民兩流料理師範石井泰次郎氏にして、石井氏指導の元に數名の教師あり

附記 先づ石井家の料理師範としての家系を記すべし

- | | | |
|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 江戸初代 石井治兵衛 <small>延寶 寶永</small> | 二代 石井治兵衛 <small>元和 明和</small> | 三代 石井治兵衛 <small>正徳 安永</small> |
| 四代 石井治兵衛 <small>寛保 文化</small> | 五代 石井治兵衛 <small>天明 天保</small> | 六代 石井治兵衛 <small>文化 明治</small> |
| 七代 石井治兵衛 <small>天保 嘉永</small> | 八代 石井治兵衛 <small>弘化 現代</small> | |

九代たるべき石井泰次郎(父は八代治兵衛母は料理師範家鈴木甚兵衛女のみす)
 右の如く石井家は江戸初代より代々料理師範家として斯界に令名あり、又九代目たるべき泰次郎氏は以前は宮中臣民料理師範の榮職を勤められ、現今に於ては専ら大日本割烹學會長として大に割烹獎勵に努められつゝあり。

六 女子美術料理科 (私立)

女子美術 學校附屬

位置 本郷區菊坂町女子美術學校内にあり

目的 本科は専ら家庭に必要な和洋及び支那料理を教授するにあり

學科 學科を別ちて日本料理、西洋料理、支那料理の三科及研究科とす

講習期 毎年左の定期及短期講習を開く

- | | | |
|--------------------|-----------------|------------------|
| 定期 春季 自二月一日 至四月三十日 | 夏季 自五月一日 至七月三十日 | 秋季 自九月一日 至十一月三十日 |
| 短期 夏季 自八月一日 至同月十四日 | 冬季 自十二月一日 至同月十日 | |

又一季終了の時食事に關する作法の講話及實習を行ふ

授業時間 午前部は午前八時より正午迄、午後部は午後三時より五時迄とす

授業日 各科の授業日は左の如し

日本料理科 水曜日 午前部 午後部 西洋料理科 月曜日 午前部 午後部
 支那料理科 土曜日 午前部 午後部 研究科 日本料理 第一第三火曜日 西洋料理 第二第四火曜日

學費 各季三箇月分の授業料左の通りに定め之を前納せしむ
 日本料理科金四圓五拾錢 西洋料理科金四圓五拾錢 支那料理科金參圓
 日西二科兼修金八圓五拾錢 日支二科兼修金七圓 三科兼修金拾壹圓
 研究科金參圓 短期講習(夏季一科金貳圓五拾錢 冬季一科金壹圓八拾錢)
 材料實費は時期に依り變更あるも凡そ一回につき金參拾錢を要す
 職員 教師は日本料理擔任赤堀菊子女史同みち子氏、西洋料理擔任木村利根子氏、支那料理擔任柴田波三郎氏にして、何れも熱心に教鞭を執り。

七 東京中央郵便局通信傳習生養成所 (官立)

位置 芝區芝公園十三號地にあり
 目的 本所は東京中央郵便局の監理にして、男女の通信事務員を養成するにあり
 募集期 毎年一回以上二月九月に募集し其都度官報及東京の重なる新聞に廣告す
 入學資格 女子は年齢滿十三歳以上二十歳以下にして、夫なき者とす
 入學試験 試験は高等小學校卒業程度にて讀書 作文 筆蹟 算術 地理 理科並に英語とす、但女子には英語を科せず
 修業及給料 入所を許されたる者は凡そ六箇月間其事務に必要な科目を修練せしむ、但

在學中は手當として日額女子には金拾五錢を給す、修了後は通信事務員に採用し、初め日給金貳拾參錢より漸次金六十五錢迄昇給せしむ、又成績優秀の者は判任官に拔擢して月給となす、又給料の外勤勉者には年三回勤勉手當を給し、二年以上勤績者には年功加俸を給與す
 保證人 保證人は東京府、埼玉縣、千葉縣、山梨縣下に居住し、土地又は家屋を所有するか若くは所得税を納むる丁年以上の男子一人を要す、尙ほ女子は市内に於て相當の監督者の家に居住するを要す
 尙ほ其他の詳細は本所在地の東京中央郵便局分室監理課養成所係に承合すべし。

八 東京中央電話局電話交換手養成所 (官立)

目的 本所は電話交換手たるべき者を養成す
 募集期 募集は毎年一回以上にして募集の都度官報及東京の重なる新聞に廣告す
 但四十二年は十二月に募集し一月十日迄願書を受付け、本年は五月初めに募集し同月三十日迄願書を受付け、されば毎年凡そ春秋二回募集せり
 志願者心得 志願者は東京に現住せる者に限る、志願書は其期日迄に中央本局及び浪花、新橋、番町、下谷、芝、の各分局中便宜の箇所にて承合の上差出すべし
 給料 養成中、二三ヶ月間は手當を給し、交換手となれば初め採用日給金貳拾參錢より漸次金六拾五錢迄昇給せしむ、又其外年三回勤勉手當及滿二年以上勤績者には年功

加給を給與す。

入學資格 入學試験、保證人等の規定は前項中央郵便局通信傳習生養成規則と大差なし。

九二二 松學舎 (私立)

位置 麴町區一番町四十六番地にあり

目的 本舎の教旨たる己を修め人を治め一世に有用なる人物を養成するにあり、故に

其の教旨に基き専ら漢學國書を教授す

創立 明治十年十月十日

部門 本舎の科程を分ちて高等科、普通科、夜學科の三種とす。

生徒種別 生徒を分ちて在塾と通學の二種とす、女子は通學のみを許す、但席は之を別に

すと雖も取扱は總て男子に準す

學科 各科の學科課程左の如し

高等科は漢文專修者及中等教員漢文科受験者の爲に之を設く、其の課程左の如し

高等科學科課程表

學科	第一學年		第二學年	
	書	論語、大學、中庸、左傳、禮	經	史

普通科は各種高等專門學校入學試験漢文科豫備及中學漢文補習者の爲めに普通の漢籍を教授す、其の課程左の如し

學科	第一學期		第二學期		第三學期	
	講	大學、日本外史論、十八史略、古文眞寶後集	孟子、十史、史記、唐宋八家文讀本	論語、中庸、史記	唐詩選、文章軌範	同
詩	文	法	子	史	記	資
作	文	文	法	文	法	文
作	詩	文	文	詩	文	詩

普通科學科課程表

學科	第一學期		第二學期		第三學期	
	講	讀	讀	讀	讀	讀
詩	文	法	文	文	文	文
作	文	文	文	文	文	文
作	詩	詩	詩	詩	詩	詩

夜學科は各種學校漢文補習及業務の餘暇漢文を修むる者の爲めに普通の漢文を教授す、其の課程左の如し

夜學科學科課程表

科	學 期		
	第一學期	第二學期	第三學期
講 讀	日本外史、論蒙文、神皇正統記、土佐日記、方丈記	十八史略、孟子、文鏡秘府論、唐宋八家文、讀史記	論語、史記、唐宋八家文、讀史記
詩 文 法	日本文典、漢文典	唐詩選、文章軌範	同
作 文	假名交文	同	上假名交文
作 詩	五七言絕句	同	上律

各科生徒何れも詩文は一箇月一人に付き、文なれば二篇、詩なれば十首を限りとして添削を受くることを得べし

授業時間 授業時間は高等科及普通科は午前若くは午後、夜學部は午後六時より始む、其時數は三學科共各二時間宛とす

學年學期 學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る、之を左の三學期に分つ

第一學期 自四月一日起至七月三十一日 第二學期 自九月一日起至十二月三十一日 第三學期 自翌年一月一日起至三月三十一日

入學期 入學せむと欲する者は何時にても試験を要せずして之を許す

入學資格及心得 入學者の資格は別に之を定めず、志願者は規定の書式に従ひ入學願書に履歷書を添附し願出つべし

入學の許可を得たる者は其父兄を甲保證人とし、東京市内に一家計を立つる身元確實なる者を乙保證人とし在學證書を差出すべし、但通學生は甲保證人を要せず

學 費 束脩高等科金壹圓 普通科金七拾錢 夜學科金五拾錢

月謝高等科金壹圓 普通科金七拾錢 夜學科金五拾錢 高等科生にして普通科

又は夜學科兼修者は金壹圓參拾錢 高等科生にして三科兼修者金壹圓六十錢 普

通科生にして夜學科兼修者金壹圓 學友會誌及茶話會費月額各金拾錢(但夜學科は不要)

修業年限 高等科二箇年 普通科及夜學科各一箇年

舍外生 遠地又は世務の爲め入學する能はずして單に詩文添削を乞ふ者は之を舍外生と

す、但束脩月謝及返稿郵券の外は諸費を要せず、其詩文添削の篇數は在學生に準ず

寄宿舎 本舎の在塾生は男子のみにして、女子は寄宿を許さず

職 員 督學は文學博士三島毅氏、舎長は文學士三島復氏にして、拾數名の教師最も懇

切に教鞭を執れり。

一〇 國語傳習所 (私立)

位 置 神田區三崎町一丁目三番地にあり

創 立 本所は男女に國語漢文を講習せしめんとするにあり

現 在 生 徒 明治二十二年十月

女子部普通科七十名、高等科六十名あり

授業時間 普通科 日曜日自午前八時至十二時 每週四時間

高等科國語 日曜日自午前八時至十二時 每週四時間 土曜日自午後二時半至六時半

時半 每週四時間 其他は毎日自午後三時半至六時半 每週三時間

高等科漢文 右の内一週四時間乃至六時間

學科 本所を分ちて前學年(普通科) 後學年(高等科)とす、其學科課程左の如し

前學年(普通科)

○大鏡 ○増鏡 宇治拾遺物語 ○徒然草 土佐日記 十六夜日記 竹取物語 ○古今集 保元物語 平治物語 ○太平記 假名遣 文典 作文(普通國文) 作歌

後學年(高等科)

(一)伊勢物語 落窪物語 ○源氏物語 ○枕草紙 榮花物語 ○平家物語 ○古事記 ○萬葉集 ○新古今和歌集 職原抄 禁秘抄 公事根源 祝詞宣命 風土記

文典 文學史 語學史 作文(擬古文) 作歌

(二)○大學 ○中庸 ○論語 ○孟子 ○小學 ○韓非子 ○左傳 ○史記 ○十

八史略 ○唐宋八家文 ○古文眞寶後集 ○唐詩選

(注意) 右學科中○印は明治四十年三月教員檢定委員會より指定せられたる參考書なり

入學期 入學は九月に始まり翌年七月に終る

學年 學年は九月に始まり翌年七月に終る

入學費 束脩金五拾錢 月謝 普通科金五拾錢 高等科金壹圓五拾錢

學費 束脩金五拾錢 月謝 普通科金五拾錢 高等科金壹圓五拾錢

教場費毎月 普通科金五錢 高等科金拾錢

修業年限 普通科一箇年 高等科一箇年

職員 國語は文學博士松本愛重氏、同木村正辭氏、文學士佐々政一氏外三名、漢文は池田四郎次郎氏、川合孝太郎氏初め數名の教師あり。

一 西内タイプライター教授所 (私立)

位置 神田區三崎町二丁目十一番地にあり

目的 本所は専らタイプライターを教授するにあり

入學者注意 此のタイプライターは、我國の鍵盤と同じく徒らに其の理由等を語るも何等

得る所なく、只其機械に向つて自身練習の効を積みて自然に迅速となるを待つより外

に道なく、換言すれば機械のみあれば單に使用法を教授するのみにて、其後は別に師

に就く必要もなく、又修了期限としても其熟練には際限なければ何ヶ月と確定する事

は六ヶ敷も、大凡六ヶ月あれば練熟し得べし

入學者資格 男子は中學卒業以上の英語の學力あれば充分にて、女子はそれ以下にても差

支なし

機械使用時間 午前八時より午後九時迄の中隨意二時間使用せしむ

學費 授業料金五拾錢(之は最初の月のみとす) 機械使用料一箇月毎日使用者金參圓一

週三回使用者金壹圓五拾錢

機械を二時間使用の後尙ほ使用の際は一時間金拾錢の割合にて使用料を徴收す
日曜大祭等の休日使用者は一時間金五錢の特別使用料を以て貸附す
タイプライターに使用する用紙は便宜上相當代價を以て讓與す
又故意に依らざる機械の破損は料金を要せず

機械貸與 自宅に於て使用希望者には左の方法を以て貸與す

- 一、當所に於て十五日以上使用者には規定の使用料のみにて貸附す
但其他の者には確實なる保證人又は相當の保證金を要す
- 二、一箇月貸與料は大略金五圓より七圓迄なれども、機械の都合にて其の都度料金を確定す
- 三、其他の事項は前項學費欄及左の時間貸與の部を参照せらるべし

時間貸與 各自英文謄寫の便宜上タイプライターを時間貸與す、其規定左の如し

- 一、時間貸與は當所に於て約束の時間を定めて使用せしむ
- 二、機械使用の際は當所に於てその重要な機械取扱法を教授す
- 三、機械使用料は一時間金拾錢とす、但約束の時間を經過し尙ほ使用の際は引續使用料を納むべし
- 四、用紙及カーボン紙等は相當の代價にて讓與す

英文謄寫 タイプライターの謄寫は、文字鮮明にして且つ謄寫の迅速なる事は如何なる達筆家も之れに及ばざる程なり、されば清書を要する英文あらば本所は其の需めに應ず、

其代價左の如し

- 一、用紙はタイプライター用の紙なれば如何なる紙にても謄寫料は變更せず
- 二、紙代及カーボン紙の代は謄寫料以外とす
- 三、謄寫料は別紙見本の通りの印刷法にて左の如し
(一) 印刷物原稿一枚につき金四錢 (二) 手書原稿一枚につき金六錢
但手書原稿と雖ども印刷物同様に読み易き原稿なれば印刷物同様の代價とす
(三) 諸表一枚につき金拾錢 但普通文章中にある半頁程の表等は別に區別せず
- 四、英語以外の外國文及ローマ綴の文字は一枚につき金六錢の割合とす、但英語及ローマ字綴り以外の外國文は總て読み易きものに限る
- 五、カーボン紙使用は一枚につき金壹錢とす
- 六、出張謄寫は一時間金參拾錢宛にて機械は持參す
- 七、其他詳細の事項は直接本所に照會せらるべし

職員 所長は西内省吾氏なり。

一一一 荒浪速記義塾 (私立)

位置 麴町區一番町十一番地荒浪速記事務所内にあり
目的 本塾は社會の需要を充さんが爲め特に完全なる速記者を養成するにあり
科目 本塾の教科を分ちて本科、補習科、速成科とす

入塾資格 入塾者は高等小學卒業又は高等女學校二三年修了以上の學力を有する者とす

然尙は高等女學校卒業以上の學力ある者なれば最も適當なり

授業時間 授業は午前及夜學の二回とす、午前の部は午前七時より九時迄、夜學部は午後

七時より九時迄とす

實力試験 本塾に於て一般速記學生の爲に毎月三回(五日、十五日、二十五日何れも午後七時より)實

力競争試験を施行す、出席者は費用として毎月金參拾錢を前納すべし(但本塾在學者は半

額とす)

學費 東修各科金壹圓 授業料一箇月本科及速成科各金壹圓 補習料金八拾錢

修業年限 本科一箇年 補習科及速成科各六箇月

概 要 一、塾主荒浪氏は貴族院速記掛技手の公職の餘暇、三十七年今の速記事務所を

創立し、國民的自助主義旗幟の下に適材なる速記者殊に技力と精神との兼備せる者を

養成せんとし、且爾來の速記者は講談落語の容易なる方面をのみ教へしも、こは斯界

の發展に益する處少なきを以て専ら醫學、法學、物理等の學說理論の速記を教授す

二、本塾機關雜誌「寫言」は明治四十年二月發刊し引續き繼續(年四回發行定價一部十二錢郵

税二錢二ヶ年前納五十錢)して速記學生又は實務者の指南車たり

三、教科書は別に定めずと雖も主幹が簿記友會の爲に講述したる「速記の友」十卷あり

之は速記術を一つの完全なる學科として組織したるものなれば、速記學生の參考と

して確に十分の價值あり

四、本塾は山師的短期講習等を排斥せんとする目的にて、隨つて通信教授の效果顯著

ならざるを認め通信教授を行はず、且眞面目の入學者にあらざれば之を拒絶する方

針なり

五、毎年一回朝野の大家を聘して義塾講話會を開く、此際は速記社會各團體實務者及

び學生皆參集するを以て相互研鑽の助あるべし、此外毎月一回十五日夜塾内に寫

言會を催し、塾長其他實務家より經驗談訓戒等あり隨意傍聽せしむ

六、本塾卒業者は各種の官職及實務に推薦するは勿論、當速記事務所の助手として實

地に従事せしめ以て自活の道と與ふるの便あり、本塾には各官省、公署、協會等より

必要なる人物を入塾せしめて其業を修めしめ成業上各方面に於て應用しつゝあり

七、本塾の前身たる速記法練習所は明治二十三年に創立したるが、本塾と相通して前

後來學する者數千に及ぶ、出身者の職業別の大要を上げれば、帝國議會貴衆兩院技手

各官省、臺灣總督府、關東都督府、韓國統監府、北海道廳、各府縣會其他諸官衙及

市區會書記、新聞社電話掛、各雜誌記者、學校教員、商館會社の文書課、速記事務

所助手等にして拔群の速記者多し

職員 所長兼塾長荒浪市平氏専ら指導教授の任に當れり。

一三一 東京速記法研究學會 (私立)

位 置 神田區錦町一丁目十二番地にあり

第二編 第九章 雜種 東京速記法研究學會

目的 本會は速記學を専門とし、國會、府縣會、郡區會、町村會、裁判演說講義、討論等、凡て傍聽速記學術を教授し、實地に應用せしむるを以て目的とす

部門 本會を分ちて普通科、速成科、校外部とし、別に練習部を設く

學科 各科の教授科目左の如し

○速記法原素起因 ○母音 子音 父音 正音 變音 單記號 複記號 速記發音の解 ○接符法 ○綴符法 ○稱號 ○數學 ○略法 ○句讀法 ○略文法 ○代名詞 (單數、複數) ○接續詞 ○形容詞 ○雜部 ○副詞 ○動詞 ○感歎詞 ○演說及會議 裁判等の略字 ○實地練習

練習部 當部は新聞、雜誌の講演を速記し、及實地筆記連筆練習譯文等を研究せしむ

教授法 本會の教授法は英國大博士(アイザックピットマン)氏の發明に則れる現今英米に專用せらるゝ處の記音術に則りたる良法を以て教授す、即ち現今我國に於て専ら用ゆる良法なり

教授回数 普通科毎日一回 速成科毎日二回 練習科毎日一時間

授業時間 授業は毎日三回とす、午前(自午前八時) 午後(自午後一時) 夜學部(自午後六時)

入學期 入學者は何時にても隨意入學を許す

學費 東修金五拾錢 月謝普通科金壹圓 速成科金壹圓八拾錢 教場費各科金

貳拾錢 練習科金八拾錢

校外生 事務多忙にして通學の餘暇なき者、或は遠隔の地方且山間僻地にして教師其の

人を得ず講修し能はざるもの、便を謀り、茲に校外部を設け講義録を以て通信教授す、本會の講義録は目を講堂に於て會長及講師の生徒に教授する速記學原素より實地速記の運筆に至る處の凡ての講義を筆記し、校外生に頒布するものなれば獨修し得ること確かなり、卒業期は三箇月とし、會費は毎月金四拾五錢、三箇月前納者は特に壹圓參拾錢とす

職員 會長は渡邊喜勢治氏にして、數名の教師あり。

一四 東京盲學校 (官立)

位置 小石川區雜司ヶ谷にあり

目的 本校は盲目の子弟を教育し自立の道を得せしむるにあり

授業時間 尋常科專修生は五時間、鍼治按摩專修生は三時間、其他は都て六時間とす

教科 教科を別ちて尋常科、技藝科の二科とし、各生徒をして一科若くは二科を兼修せしむ

學科 各科の學科課程左表の如し

尋常科學科課程表					
學科	第一	第二	第三	第四	第五
年	年	年	年	年	年

せしむ

學科 各科の學科課程左表の如し

尋常科學科課程表

學科	學年	第一年	第二年	第三年	第四年	第五年
讀方		片假名、平假名、數字、假名、單語、短句發音	假名、單語、漢字、單語、漢字、交、口、發音及口	同、漢字、交、文、上	口、漢字、交、文、上、書、類、談	同、書、文、上
習字		片假名、平假名、數字、假名、單語	階書及行書、漢字、單語、漢字、交、口	同上、又、苗、字、上	口、行書、及、草、書、類	同、書、文、上
作文		假名、單語、短句	同上、及、漢字、交、口	漢字、交、口、短句	口、漢字、交、口、文、類	同、書、文、上
算術		加算、減算、方	乘算、減算	乘算、除算、度量衡、貨幣算	除算、應用雜題	應用雜題
筆談		會話	會話	會話	會話	會話
體操		美遊、藝術、遊藝	徒手及機械體操	同上	同上	同上

技藝科學科課程表

(彫刻ハ當分中止)

學科	學年	第一年	第二年	第三年	第四年	第五年
圖畫		線及線、粧飾、濃淡、色及	花鳥、臨畫、花鳥、手、獸、粧鳥、寫、真、寫、真、寫、真	山水、臨畫、山水、新案、人物、臨畫、新案	山水、人物、水、物、真、寫、真、寫、真	真、寫、真、寫、真
彫刻		道具ノ使方	箱盆壺ノ類	草花鳥獸、浮彫	鳥獸、浮彫、石、山、水、獸、浮彫、模、型、形	及、人、物、浮、彫、型、形
指物		小箱類	箱盆壺ノ類	机、箏、箏、箏	卓、書、棚	同上ノ唐木細工
裁縫		針ノ運方及襦袢類	襦袢、單衣、袴、袴、帶等ノ裁縫	袴、帶等ノ裁縫	羽織、袴、帶、及、足袋、股引類ノ裁縫	同、夜具類ノ裁縫

入學期 入學は毎學年の始め四月とす、入學志願者は二月より三月始め迄の内に志願書を差出すべし

入學資格 入學を許す者は年齢滿拾歲以上拾六歲以下身體健康にして種痘又は天然痘濟の者に限る

寄宿舎 生徒は願に依り寄宿を許す

學費 生徒の賄料は一箇月凡そ金六圓にして諸雜費共金七圓とす

修業年限 凡そ五箇年

職員 校長は小西信八氏にして、教諭訓導以下貳拾餘名教鞭を執れり。

一六 盲人技術學校 (私立)

位置 京橋區築地三丁目日本願寺内に假設す

目的 本校は東京盲人教育會の主旨により附設せられ、男女の盲人に對し鍼灸按摩音樂等に關する必須の學術技藝を教授し獨立自營の人たらしむるにあり

東京盲人教育會 本會は東京府下在住の盲人に對し社會の進運に伴ひ鍼灸其他必須の教育を施し獨立自營の基礎を鞏固ならしむるを目的とし、之を遂行せん爲め盲人技術學校を設立し、且各郡區へ巡廻教師を派遣す、本會の經費は大日本佛教慈善團體の補助金及篤志家の寄附金を以て之に充つ

創立 本會の濫觴は明治三十四年にして四十年二月組織を改め前記盲人の教育會を設け四十一年八月本校を設立す

教科 教科を分ちて鍼灸科及音樂科の二科とす、但志望により鍼灸及音樂科中の一科を專修することを得べし

學科 各科の學科課程左表の如し

鍼灸科課程表

學科	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年	
	數	時	數	時	數	時	數	時	數	時
灸										
鍼	道徳ノ要旨	二	同上、刺方	四	同上、實習	四	同上、實習	四	同上、實習	五
治	鍼ノ取扱方經穴名稱、位置	四	同上、刺方	四	同上、實習	四	同上、實習	四	同上、實習	五
身	道徳ノ要旨	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二
修	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二
學										
年										

音樂科課程表

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
	數	時	數	時	數	時
按摩	方	四	腹	四	マツサージ	四
醫學	解剖	三	解剖、生理	三	生理、病理	三
國語	點字	三	讀本、作文	二	同上	二
算術	加減	二	乘除	二	度量衡	一
地理	方角、道路、溝渠ノ話	一	日本地理	一	同上	一
歷史			日本歷史	一	同上	一
理科			自然界大意	一	物理、化學大要	一
體操	操	二	同上	二	同上	二
合計	一	八	二	一	二	一
合計	二	一	二	一	二	一

和聲學	樂典	一	同	上	三	同	上	三
國語	點字	三	讀本、作文	二	同	上、歌文	二	二
算術	加減	二	乘除	二	四	則應用	一	一
體操	普通體操	二	同	上	二	同	上	二
合計		一二三		二四				二四

授業時間 授業は午前九時より午後二時迄とす、但日の長短により斟酌することあり

學年學期 學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る、之を左の三學期に分つ

第一學期 自四月一日 至七月三十一日 第二學期 自八月一日 至十二月三十一日 第三學期 自一月一日 至三月三十一日

入學期 入學は毎學年の始めとす、但缺員ある時は臨時入學を許すことあるべし

入學資格 入學志願者は東京府下在住の盲人にして、年齢満十八歳以上二十五歳以下の者たるべし

學費 本校生徒は授業料を要せず、尙ほ特種の事情ある者は事宜により學資を補助することあるべし

修業年限 鍼按科五箇年 音樂科三箇年

役員 會長は後藤環爾氏にして、理事三名、顧問は伯爵板垣退助氏、男爵前島密氏、

男爵辻新次氏、文學博士南城文雄氏、文學博士前田慧雲氏、醫學博士三宅秀氏、大内青齋氏、田中弘之氏、小西信八氏、富士川游氏にして、評議員には高木正年氏岡田治衛武氏始め貳拾餘名あり

職員 校主は鶴高隆憲氏 校長は文學博士前田慧雲氏、校長代理兼主監は松岡了眼氏、教頭は吉田弘道氏にして、拾數名の講師教員熱心に教鞭を執れり。

一七 樂石社 (私立)

位置 本社は小石川區小日向第六天町新坂上五十二番地伊澤邸内、分社は静岡縣國府津海岸相州酒匂伊澤別邸内にあり

目的 本社は吃患者をして矯正傳習せしむるにあり

部門 本社に吃音矯正傳習科、吃音矯正者養成所科、吃患者無料矯正科、地方出張矯正部を設置す

○ 吃音矯正傳習科

病種及治療 本社に於て吃音及び其他の言語障礙を矯正するは、音韻生理心理教育等の理法を應用して各種の練習及び治術を施すにあり、故に左の諸症は皆治癒することを得べし

- 一、難發性 一語一言を發し始むるに當り甚だ困難する者
- 二、中阻性 發言の中途にて言葉つまり一句も出ず語話の全部を完了する能はざる者

三、連發性 發言に際し同一の語を數回續發する者
以上は吃音の三大症狀にして其發吃の場合左の如し

A 季候の變り目特に寒冷の時に吃する者

B 嚴肅なる式場又は多人數集會の席上等にて吃する者

C 目上又は初對面の人に接し又は傳令報告の際に吃する者

D 號令を唱へ又は高聲を發せんとする時吃する者

E 急に語言を發し又は即答せんとする時吃する者

F 國語漢文講義又は外國語讀方又は和譯の際吃する者

G 急劇なる運動を爲し又は疾走せし後に吃する者

H 狼狽、驚愕、恐怖又は憤怒の際吃する者

I 病氣又は疲勞沈鬱の際吃する者

四、舌緊帶其の他發音器に異狀あるが爲め吃音又は他の言語障礙に罹れる者は、診查の上適當なる醫師の施術を受けしめ快癒の後矯正するものとす

五、重聽(耳遠)の爲め特殊の訛癖又は瘡症に陥る者は耳鼻咽喉科醫の治療を受けしめ、尙ほ聽官の發達不完全と認むる者は、特別の施術と練習とに依りて、普通の言語應答に支障なきに至らしむべし

入社資格 何人を問はず以上の言語障礙を患ふる者は、本社に入り矯正傳習を受くることを得

但年齢十二歳以上三十五歳以下にして體質強健且普通教育ある男女は矯正の効驗最も顯著なるものとす、尤も前項の重聽者は十歳前後に矯正するを可とす

入社及退社 吃患者の入社及び退社定日は本社及分社とも毎月各三回とし、本社は毎月五日十五日二十五日、分社は毎月十日二十日三十日とす

但冬期特別傳習は毎年十二月二十五日酒匂分社に於て之を開き、以後毎五の日を以て分社の入退社定日とす

傳習期 普通傳習は二時間(二十一日間)の矯正傳習を施すものとす

速成傳習は吃患輕症者又は止むを得ざる事情ある者に限り一期間(十二日間)の矯正傳習を施すものとす、但速成傳習終了者は其望に依り通信矯正を受くることを得

傳習費 入社員は入社金壹圓及び社費一日に付き金拾五錢を納むべし

矯正傳習料は普通傳習金拾圓、速成傳習金五圓、但通信矯正を受くる者は更に金五圓を納むべし

寄宿所 入社員は本社寄宿所又は本社より指定する所に寄宿すべし、其寄宿料は一日に付き金六拾錢を通例とす

但寢具を携帯せざる者は別に其使用料として一日に付き金拾貳錢を納むべし

納費 前記の各費用は總て入社の時納付すべし、若後日に至り半途退社等の理由生ずることあるも其返附を乞ふを得ず

特典 入社員は傳習期間矯正傳習の爲め、本邸内の庭園及び分社接近の海濱等を自由

に使用することを得べし

- 注意要件**
- 一、吃患者入退社定日前後數日間は伊澤修二先生出席して親しく診査矯正を施し、其餘毎日(日曜、大祭日を除く)本社幹事又は助教員擔當傳習す
 - 二、入社志望者は毎月入社定日の前日までに来社の上入社手續を爲すべし
 - 三、分社位置は東海道國府津停車場より下車し電車にて大凡十五分の距離なる酒匂小學校の前に在り、其裏手は直に海岸に接して、海氣吸入發音練習の爲には最も便利の地なり
 - 四、普通又は速成傳習を卒へたる者又は吃患再發者にして、安心の爲め特別心理的治術を乞ふときは其望に應ずることあるべし
 - 五、吃音は一種の惡癖にして醫藥の力にても治癒せざる程のものなれば、親しく吃患者に接して一々適應の矯正法を施すに非ざれば到底十分に治効を奏し得べきものに非ず、故に本社に於ては普通又は速成傳習終了者の外は通信矯正を施すことなし、然るに世には單に通信矯正に依りて治癒するなど無責任の廣告を爲す者あれど決して之を信す可らず
 - 六、年齢十二歳以下の幼兒の吃音矯正を乞ふ者は、其親戚又は師友同伴して傳習を受け在家練習指導の任に當るを要す、此の如き方法にて治効を奏したる者少しとせず
 - 七、女子の吃患者は男子と寄宿所を異にして傳習を施行す、又其望に依り姓名を公示せず

せず

- 八、規定の傳習終了の後尙ほ幾多の溫習を重ね確實の治効を收めんが爲め在社する者は、診査費及び社費の外別に傳習料を要せず
- 九、慈善行爲を以て本社に金員を寄附する者ある時は、本社慈善資金とし以て無資力なる吃患者に無料矯正を施すべし

○ 吃音矯正者養成科

目的 本社に於て吃音矯正者を養成するは、其矯正法を全國に普及し、以て吃音其他言語障礙に罹れる者を救濟せんとするにあり

學科 學科目は音韻學 生理概論 心理理論 實驗教育學 教育病理概論 吃音及訛音矯正法等とす

入學資格 中學程度以上の教育を受けたる者にして、従前吃患に罹り本社の矯正に依り治癒したる者は、此の規則に従ひ本科の生徒たることを得

學費 本科生徒は無料にて講習を受くるものとす、但入社中の寄宿料等は各自支辨すべし、然れども本人の事情に依り特に免除することあるべし

修業年限 修業期限は一箇年とす、但本社矯正法に習熟せる者の爲には別に速成の途を開くべし

義務 本科生徒は卒業後少くとも二箇年間本社の指定に従ひ服務するの義務を有す

但服務中は相當の手當金を交付す

○ 吃患者無料矯正科

目的 本社の事業を賛成し樂石學院新築のため寄附せられたる慈善金千數百圓に達せしに依り、左記要項に照らし無料矯正を施行す

入學資格 年齢十三歳以上二十五歳以下にして普通教育あり品性篤實體健全の者、本社は此の資格を有する者を一應調査の上適當と認むるものには、時日を通知し試験の後合格者には入社を許可す

注意事項 入學者は保證人二名以上を要す、内一名は近親者にして本人矯正中衣食に差支なく、且一身上に關する一切の事件を保證すべきこと

矯正終了の後には本社のため盡力し、且永く出資せる慈善家の恩を記すべき誓約書を保證人連署にて呈出すべき事

無料矯正は當分一箇月三名を限りとする事
志願者は右要項承知の上履歷書及び願書を本社長伊澤修二に宛て差出すべし

○ 地方出張吃音矯正部

目的 遠隔なる地方に在りて本社の矯正を望む吃音者の爲め、本社長又は本社幹事教員等出張して矯正を施すことあるべし

出張場所 左の各市町にて矯正を受けんことを望む者二十名以上あるときは何時にても出張矯正を開始すべし

- 東京附近 横濱 千葉 静岡 宇都宮 高崎 水戸 長野 松本 甲府
- 畿内近傍及び山陽地方 名古屋 岐阜 津 京都 大坂 和歌山 神戸 姫路 岡山
- 廣島 山口又は三田尻 下關
- 山陰地方 松江 鳥取
- 四國地方 高松 徳島 高知 松山
- 九州地方 福岡又は博多 熊本 佐賀 長崎 鹿兒島 大分又は別府 宮崎
- 北陸地方 福井 金澤 富山 直江津 柏崎 長岡 新潟 新發田
- 奥羽地方 福島 仙臺 盛岡 青森 弘前 大館 秋田 新庄 山形 米澤 酒田又は鶴岡
- 北海道 函館 札幌 旭川 釧路

注意要項 出張矯正志望者は履歷書に住所姓名年齢を記し入社金壹圓を添へ其矯正を受けんと望む市町名を指定し本社に申込むべし、但入社金は其地方に矯正を開始せざる時は本人に返附すべし

傳習期日、入社金、傳習料等に關しては、凡て本社傳習規則を適用す
社費、寄宿料は當該地方の情況に従ひ之を定む、尤も本社より距離の遠近に準し、別に出張實費を申受くることあるべし

重患者又は特別の症狀ある者は東京本社又は分社に送致して、相當の矯正治術を受けしむることあるべし

地方有志家又は慈善家等にして本社出張事業を助力周旋するものある時は、其紹介に係る吃患者は員數を限り無料にて矯正すべし

職

員 社長は伊澤修二氏にして、幹事は松澤忠太氏以下四名及助教員數名あり。

附記

本社は明治三十六年二月創立せられ、以來伊澤社長の献身的矯正により、日本全國及清國方面に涉り殆んど男子二千百餘名女子三十餘名に旋行し、其内全治の効果を奏し進學立身の途を開きし者固より少なからず、又目下三十餘名を收容し治癒に盡瘁せられつゝあるは、之等薄幸兒をして復活の光明を得せしむる大なる福音にして、吾人は衷心より感謝する處なり、又社長は四十二年十月本社の規模を擴張し、新に樂石學院を建築せん事を企て、依て社長は私財中より金壹千圓を割きて其費途に充て、又其筋よりの許可を得て不足額金五千圓を、社會有志者よりの寄附を仰ぐに至れり、幸に之等篤志者より既に金貳千餘圓の寄附を得又今回内務省より吃音矯正有効を認め助成金壹千圓を下附して貧困者の爲め格別の盡力を望まれたり、依て從來の矯正傳習科の外、矯正者養成科、無料矯正科、地方出張矯正部等を増設し、其の或一部分を開設しつゝあり、されば之等不幸兒に新生命を與へんとする世の慈善家諸氏は、多少に拘はらず寄附(但寄附金は壹圓以上)せられ、以て社長が素志を成就せしめられん事を切望す、敢て樂石社の爲め御大誠を叩くにはあらざるも、之等薄幸者の爲め特筆する次第なり、又伊澤社長が積年の刻苦研鑽に成れる日本音韻の研究及訛音吃音の矯正に關する著書は、視話法、視讀法、應用視話音韻新論、視話應用東北發音矯正法、發音練習會話篇等あり、尙ほ本社の事柄は再版の際詳評を試みて讀者

の参考に供すべし(著者)。

最近
調査
女子東京遊學案内
終

第二編 第九章 雜種 樂石社

正誤表	
頁數	行數
五一	一二
五一	一三
五五	一四
五五	一〇
五九	八
誤	正
落町分署	横山町分署
(落町二丁目)	(横山町二丁目)
矯正し	矯正し
努力すべし	努力すべし
は女子男子ほど	女子は男子ほど
自身主を宰者	自身主宰者

明治四十三年八月廿八日印刷
 明治四十三年九月一日發行

(女子東京遊學案内)
 定價金五拾八錢

著作
 所有

發行所

東京市日本橋
 區本町三丁目

博文館

振替貯金口座東京二四〇番
 阪電電話本局二六二〇番

著者 今井 淳

發行者 大橋 新太郎

印刷者 水谷 景長

印刷所 博文館印刷所

東京市小石川區久堅町百〇八番地

文學博士 森鷗外君 序文 今井翠巖君著 ●增補大訂正 明治四十三年八月現在

最近 男子東京遊學案内

全一冊洋裝四六判美本
紙數六百二十頁
各學校寫真版挿入
正金五拾五錢
郵税金十錢

本書は部二百五十の學校を組織學則教授法より監督法束修月謝の細項に實地調査をなし、正確も、詳密に左記各項説示せり

- 項目
- ◎遊學者指針△上京の準備△學校の種類と撰擇△受験と入學の心得△各學校修業の年限△學費の豫算△上京の注意△着京後の注意△宿所の撰擇△衛生上の注意△圖書館と博物館
 - ◎各種學校規則部別△法律政治經濟殖民△文學教育△軍事△農業水産△工業△商業△醫學△理科簿記△外國語△美術音樂△宗教△高等學校及大學豫備科△中學校△各種學校清國留學生部
 - 附錄東京實測明細地圖

東京日日新聞は本書を評して曰く「前略」舊來の書は其列舉せる學校の數稍や遺憾なく網羅せり、又既刊の書は大抵學校のみを記して他に及ばず、然るに本書は博物館及び圖書館の事をも録せり、其他汽車汽船の事、遊學の目的、季節等の事まで列記せしは頗る親切と謂ふべし、殊に地圖を添え、著者が義侠上遊學者の爲め可否の回答、入學の便（下略）と本書が如何に入學者の爲めに最良無二の好指針たるかを知るべし

博文館發行

中野丈夫君編

●發行所 博文館●

中學 校 高等女學校 入學試験問題集

全一冊 四六判 美本
紙數 百七十頁
正金 拾五錢
郵税金 四錢

本書は、中學校、高等女學校に入學せんとするもの爲めに、一廳三府四十三縣にわたり、明治四十一年三月施行せられたる五十二校の入學試験問題を蒐集したるものな、國語は、各校分を其儘府縣算術は、同様の問題にして偶然數錄するに止め、悉く採録し、之を秩序的に排列して又受験に關する心得、公式及びメートル法、度量衡表等を掲出して最も適切なる準備的獨習をなし得ると同時に、自己の學力を試験するを得べし、敢て大方大いなる興味を以て、自己の學力を試験する者諸子の座右に薦む。

師範學校漢文自修讀本

光藤泰次郎君 共著 朝夷不二雄君

全一冊和裝菊判 紙數二百九十頁

正價金四拾五錢 郵税金六錢

家庭百科全書

全部 五十冊

菊判和裝大和綴
表版顔口輪一葉及
石版刷十個挿入
紙數一冊三百頁以上

正 價
十一冊 冊金四拾五錢
十冊 冊金四圓二拾五錢
五冊 冊金拾八圓五拾錢
郵稅一冊 冊金八錢

發行所 博文館

振替貯金口座東京二四〇番

既刊書目

家庭整理の指導

- 第一編 ● 新家庭訓
- 第二編 ● 四季料理
- 第三編 ● 裁縫指南
- 第四編 ● 和洋菓子製法
- 第五編 ● 茶道と香道
- 第六編 ● 諸流生花指南
- 第七編 ● 育兒の務
- 第八編 ● 簡易治療法

三輪田高等女學校校長 三輪田眞佐子女史著
大日本割烹學會々長 石井泰次郎君著
女子高等師範學校教授 喜多見佐喜子女史著
東京治癒會講師 龜井まさ子女史著
水原翠香女史著
青山御膳松園文雅君 隨見女學校校長藤理參君共著
醫學士 田村眞策君 朝夷孤舟君共著
新潟縣高田高等女學校教諭 藤井靜子女史著

婦女必讀の大全書

- 第九編
- 第十編
- 第十一編
- 第十二編
- 第十三編
- 第十四編
- 第十五編
- 第十六編
- 第十七編
- 第十八編
- 第十九編
- 第二十編
- 第二十一編
- 第二十二編
- 第二十三編
- 第二十四編
- 第二十五編
- 第二十六編
- 第二十七編

- 禮式と作法
- 惣菜料理
- 編物指南
- 婦人の生理衛生
- 教育お伽噺
- 女徳の養成
- 家屋と庭園
- 魚鳥家畜の飼養
- 女子の作文法
- 女子の趣味
- 家庭の遊戯法
- 家庭遊戯法
- 書道指南
- 刺繡術指南
- 歌の細工指南
- 摘み細工指南
- 新式化粧法
- 室内装飾法
- 衣服の調整法

(以下逐次刊行)

女子高等師範學校教授 佐方靜子女史著
赤堀峰吉君 赤堀吉松君 赤堀菊子君共著
女子技藝實踐學校編物科主任 三水とみ子女史著
青山學院教授 牧野清子女史著
少年世界記者 木村小舟君著
前田長太君著
内山正如君著
鹿野化骨君著
農業世界記者 松崎ふく子女史共著
遠藤ふみ子女史 榑橋絢子女史著
東京高等女學校學長 榑橋絢子女史著
文學士 大森兜山君著
高橋忠次郎君 松浦政泰君共著
井田秀生君著
刺繡術專門 磯村大次郎君著
造花技術校主 大和田建樹君著
山田興松君著
藤波芙蓉君著
近藤正一君著
石崎篁園君著

博文館婦人必讀書類

●女子のつとめ

文學士 下田次郎君著

全一冊 袖珍美本
紙數二百六十二頁

正價金貳拾五錢
郵税金四錢

目次
○若き婦人の交際
○友を戒む
○奢侈を戒む
○富國の克服
○獨を慎め

○婦人と道德
○先代萩を見る
○虚榮
○誘惑
○本を讀むべし

○借金の貯蓄
○内助の信用
○下女の仁義
○不肖の子
○話の種

○時は金にあらず
○貴女は何んぞや
○年の暮れ
○櫻の春
○卒業生を送る

●女子の修養

文學士 下田次郎君著

全一冊 袖珍美本
紙數二百五十頁

正價金貳拾五錢
郵税金六錢

●名媛と筆蹟

中村秋人君著

全一冊 四六判裝釘
瀟洒寫真版挿入

正價金四拾錢
郵税金六錢

●富美宮泰宮兩内親王殿下、各宮妃殿下各姫宮殿下三十方に、名流婦人、女子教育家、女流作家、女流畫家四十二人の優しき美しき幽かしき愛らしき話のみを叙し附録としては三皇孫殿下若宮殿下の御愛嬌と附人に關する數項を加ふ

●筆蹟は各宮妃殿下と名媛の書畫數十枚を挿む

●著者は虚榮虚飾の塵煙を厭ふて清を探るの年少氣鋭の健筆家なれば其觀察は著實にして精細一旬一章必ず教育的の意味を含み筆は縦横自在なれば讀んで面白き近來の快著也

●活動實業界の婦人

田村三次君著

全一冊 菊判美本
紙數二百五十頁

正價金參拾八錢
郵税金六錢

萬朝報評 富か贏ち得たる現代女子の立志傳なり「發明家の母」あり「光榮あるシャツの元祖」あり「黒リボン」と銘を打たれたるあり。女子に就いて屢々いふものあれども實業界の婦人を紹介したる書は少からん

●偉人の母

前田越嶺君著

全一冊 菊判美本
紙數百七十四頁

正價金參拾八錢
郵税金六錢

愛國婦人評 此書は「偉人は多く其母の感化を受けた結果である」と言ふ金言を實際に就て示したるものですから苟くも自分の子供を英雄豪傑にしたいと云ふ希望を持つ母親は是非一讀を要する本です實例は歐米各國のあらゆる方面に採られて居りますから變化があつて面白く讀む事が出来ます(下略)

●當世奥様の氣質

福田琴月君著

全一冊 四六判美本
紙數二百二頁

正價金參拾錢
郵税金四錢

目次 ○奥様十種 ○あはれな誇り ○人の噂 ○會社員の奥様 ○結婚前の某嬢に答ふ ○母より ○大みそかの霜夜 ○土産日記 ○奥様の失望 ○奥様となる事は易く奥様たる事は難し ○餘興滑稽戲の蒲焼

●巴里婦人の顧問

前田雪子著

全一冊 三六判美本
紙數四百八頁

正價金四拾八錢
郵税金六錢

歐米交際界に花の王と稱せらるる巴里婦人の輕妙なる應對振、訪問振、談話振、舞踏振を始とし、宴會法、婚姻法、外出法等あらゆる禮法を網羅したれば、苟も文明の禮法を學ばんとする奥様方、特に未來の外交官夫人とならるる淑女令嬢方は一本を購求し給はば、二十世紀の社交界に立ちて華々敷く活動することを得べし

婦人・國

桐生悠々君譯

全一册三六判上製
紙數 三百一頁

正價金四拾五錢
郵稅金六錢

マクス、オレルル氏の文は簡潔にして辛辣加ふるに奇警なる觀察を以てし滑稽百出人の願を解く蓋し一代の奇才也本書は即ち同氏の著に就き戀と女とに關し趣味あり且つ實益ある部分のみ摘譯せるも人類の根本的二十大本能に關して日常男女を警醒するの訓言所在指を屈するの違なし未婚者も讀むべく既婚者も讀むべく家庭の平和を期して社會の進歩を欲するものに於て特に然り

女性觀

附通人

伊達奥洲君著

全一册三六判美本
紙數 百六十四頁

正價金貳拾錢
郵稅金貳錢

▲兎角に女は引込み勝なり▲嬌激にして中庸を得難し▲女子と感情▲女は優しく可憐なるも▲のなり▲虚榮 自惚 瘦我 慢強きものなり▲貞節は婦人の生命なり▲女性に愛の権化なり▲女性と嫉妬(通人漫語)▲愛慕負の脱▲戀とは何ぞ▲婦人の心得草▲歌唄界の消息(其一)▲歌唄界の消息(其二)▲漫語數則(其一)▲漫語數則(其二)

女子職業案内

近藤正一君著

全一册三六判美本
紙數 四百六十六頁

正價金四拾五錢
郵稅金六錢

▲女子の生活○家庭教師○音楽隊○女醫○日本銀行女子事務員○女子の獨立○保姆○寫眞師○看護婦○通信局電務課員○女子の職業○閨秀文學家○割烹教師○産婆○女子商店員○小學校教員○女記者○茶道教師○東京郵便局の事務員○三越呉服店の女店員○中等教員○閨秀畫家○插花の師範○電話交換手○速記業○女工○縫工○絹物教師○裁縫教師○婦人の諺曲師範

名家家庭の模範

中村鈴子女史著

全一册四六判美本
紙數 四百二十八頁

正價金參拾八錢
郵稅金六錢

女學世界記者中村鈴子女史久しく誌上に家庭訪問欄を擔任し數年名家を歴訪して其直話を世に紹介せり今本書に其模範となるべきもの數家を撰摘して一層世に益する所あらしむ權門有力者の家庭學者名士の家庭軍人實業家の家庭等其名家の主人に親接して實踐躬行の直話を寫眞し温かき香ばしき家庭きらんとするの良模範に資するなり諸女一本を備へて美質良風を涵養せらるべし

264
474

to
①
17



最近調査
女子東京遊学案内

259

225

Ⓜ

048744-000-0

259-225

女子東京遊学案内

今井 翠巖 / 著

M43

BEJ-0270

